

農芸化学部土壤改良科

昭和43年度

地力保全基本調査成績

〔北見地域 北見市〕

北海道立中央農業試験場

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて充分にその地力を発揚できない場合が少くないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和43年度に実施したものでこゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和43年3月

北海道立中央農業試験場

三 島 京 治

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になっている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壌断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壌統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部土壌第3課）による。

土壌統および土壌区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壌第1研究室の土性図を参照した。

化学部	部長	長谷部	俊雄
土壌改良科	科長	後藤	計二
”	第1係長	小林	荘司
”	研究職員	高尾	欽弥
”	”	菊地	晃二
”	”	水元	秀彰
”	”	伊東	輝行
”	”	坂本	宣崇
”	”	小林	茂

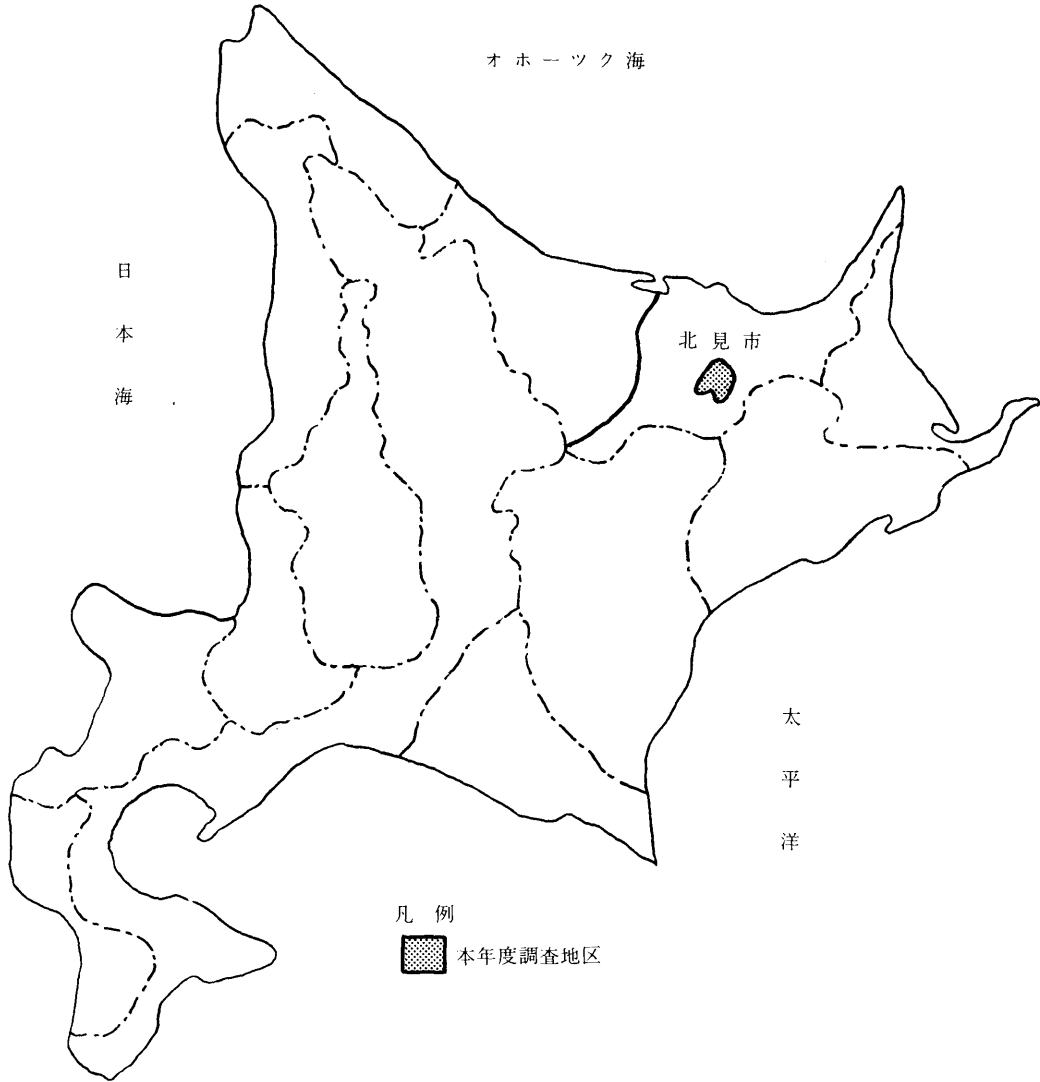
主に化学分析を担当した職員

研究職員	宮脇	忠
”	木村	清
”	松原	一実
”	上坂	晶司

1. 調査地域の面積（ha）

調査地域名	該当郡市町村名	農地面積 (調査対象面積) (ha)		既調査面積 (ha)		本年度調査面積 (ha)	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
北見地域	北見市	2,497	9,935	—	—	2,497	9,935

調査地区位置図



北 見 地 域 北 見 市

1. 地区の概要

1) 位置及び調査面積

(1) 位 置 網走支庁管内 北見市

(2) 調 査 面 積

郡 市 町 村 名	農 地 総 面 積 (ha)				調 査 対 象 面 積 (ha)			
	水 田	普通畑	樹園地	計	水 田	普通畑	樹園地	計
北 見 市	2,497	9,935	—	12,432	2,497	9,935	—	12,246

過 年 度 調 査 面 積 (ha)				本 年 度 調 査 面 積 (ha)				次 年 度 以 降 調 査 面 積 (ha)			
水 田	普通畑	樹園地	計	水 田	普通畑	樹園地	計	水 田	普通畑	樹園地	計
0	186	0	186	2,497	9,749	—	12,246	0	0	0	0

2) 気 候

本町は北海道の東部に存在し、オホーツク海沿岸内陸地域に属する。この地帯もオホーツク沿岸地域より若干程度は低いがオホーツク海気団の影響は免れ得ない。このためしばしば冷湿害を受ける。特にこの地帯の水稲は低温豪照により所謂冷害の被害程度が大きい。また豆類もこのような年には甚しい低収となる。

気候は一般に冷涼で、降雨量が少ない。春季の強風乾燥期には一部風蝕を受ける地点がある。網走測候所の観測成績は次表の如くである。

項目		月 別								
		4	5	6	7	8	9	10	11	
気 温 (℃)	平 均	3.6	8.7	12.4	17.0	19.5	15.8	10.1	3.1	
	最高平均	8.2	13.5	16.7	20.9	23.5	20.1	14.8	6.9	
	最低平均	-0.2	4.6	8.8	13.8	16.3	12.4	6.3	-0.2	
降 水 量(mm)	平 均	46.8	70.5	64.6	89.3	98.8	120.6	81.4	67.4	
温 度 (%)		7.3	7.7	8.4	8.8	8.7	8.3	7.7	7.2	
風 速 (m/s)		4.6	4.3	3.1	2.7	2.9	3.7	4.1	4.6	
日 照 時 間 (時)		196.7	191.1	198.6	191.7	199.7	198.6	179.2	133.6	

晩 霜 5 月 1 5 日

初 霜 1 0 月 1 7 日

また北見市における観測成績は次のようである。

昭和40年度

項目		月別											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気 温 ($^{\circ}$ C)	平均	-7.5	-8.7	-5.0	2.5	10.6	15.6	16.3	19.9	15.3	8.4	1.6	-5.2
	最高	-2.6	-2.8	2.2	7.8	7.9	22.0	20.8	25.4	21.0	15.6	6.6	-0.3
	最低	-13.1	-15.3	-10.7	-4.1	3.1	9.5	11.6	14.7	9.3	1.1	-4.8	-11.3
平均温度	%	8.2	7.5	7.6	7.0	6.5	7.4	8.4	8.2	8.0	7.5	7.2	7.5
降水量	mm	79.9	14.6	79.6	70.4	20.0	69.4	63.4	66.6	16.8	15.2	70.7	23.6
日模時間	m	120.9	181.0	222.3	253.0	257.0	234.8	186.8	226.6	189.7	213.1	143.4	142.4
風速(平均)		1.9	2.2	2.6	2.5	2.6	1.9	1.7	1.4	1.7	1.7	2.6	2.0
最多風向		W	WNW	NNE	W	SW	SW	ENE	SW	S	WSW	W	WSW

3) 土地条件

(1) 地 形

本調査地区は南西から東北に向つて3本の川が流れている。即ち常呂川と無加川が北見市街において合し端野町に向つて流れており一方この北部を仁頃川が流れて常呂川下流において合している。これら河川の流域には低平地が流れに沿つて分布し、特に無加川と常呂川が合流するところは低平地が広く分布していく主要な水田地帯になつている。

これら低平地の両岸には略々平坦な台地や波状性台地が広く分布し、主要な畑作、酪農地帯になつている。

(2) 地 質

本町の南部、常呂川南岸に分布する波状性台地はその背後に連なる三紀層、砂岩、頁岩、凝灰角礫岩、赤色珪岩等の岩石を反映してこれらの風化物を母材とする洪積世堆積物や崩積、扇状堆積物からなつている。常呂川と無加川の間には存在する略平坦な台地は恐らく屈斜路カルデラから放出されたと思われる軽石流堆積物の風化土壌からなつている。

また無加川と仁頃川の間には波状性傾斜を有する台地は軽石流風化物、三紀層シルト岩、砂層を母材とする土壌や砂、粘土層を母材とする洪積層が分布し、更に仁頃川の北岸の波状性台地も同様に砂礫、粘土からなる洪積世堆積層からなる。これは何れも下層が堅密で瘠薄な土壌が生成されていて畑作或は混同経営等が行なわれている。そしてこれら波状性台地の処々に軽石流堆積物が分布する。

尚、全域に薄層の火山灰が極く表層を被つているが耕地においては識別し難い。

(3) 侵蝕状況

本町の中央より北部の台地は波状性傾斜地が多く水蝕の発生が一般に見られ、特に軽石流風化物からなるところ(火山性土)は土壌の耐侵蝕性に乏しく水蝕の発生程度が更に大きく微地形によつて地力が相違する。

南部の丘陵性台地も急傾斜が多く水蝕が多く発生する。

(4) 交通状況

低地は無加川に沿つて舗装された一般国道が東西に走り、また常呂川に沿つて道道が訓子府、置戸方面に伸びており、これら道路の左右に号線道路が発達して交通は便利である。しかし波状性台地は傾斜に妨げられて蛇行した道路が網状に分布するが整備が完全でなく、奥地程道路網の発達不良で路面状況もまた不良で交通にはあまり便利ではない。

4) 土地利用及び営農状況

a) 経営面積 (1戸当平均ha)

面積	田	普通畑	樹園地	その他
5.2	1.0	4.0	—	0.2

b) 作付面積 (1戸当平均ha)

作物	水稲	麦類	馬鈴薯	ビート	豆類	牧草及び飼育作物	その他
面積	1.0	0.2	0.3	0.6	1.4	0.7	0.9

c) 家畜の種類及び頭数

	馬	乳牛	豚	緬羊	鶏
飼養戸数	1,687	460	248	146	615
飼育頭数	1,936	2,362	1,000	208	23,830
1戸当り飼育頭数	1.2	5.1	4.0	2	38.7

d) 労働の関係 (1戸当人数)

家族人数	労力換算	季節雇	臨時雇
4.9	2.6	0.2	39.5

常呂川、無加川の流域は主として水稲が作付られ網走管内の主要な水田地帯になつており、また仁頃川及びその他小河川の流域にも水田耕作が行なわれ近年更に造田がなされているが、当地は稲作限界地帯に位し、オホーツク気団の影響を受けてしばしば低温に見まれて冷害凶作をうける。この障害型、生育遅延型の技術的克服が目下の重要課題であるが、差し当つて現在の技術でいかに安全確収を得るかについての努力が肝要であろう。

近年市街地の急激な膨脹と工場の新設、移転等で農地の転用が著しく、また波状性傾斜地や台地奥地の低位生産地は植林等が盛んに行なわれるようになり耕地面積と農家戸数は年々減少の方向に向つている。また混同経営、酪農経営が行なわれている台地や波状性傾斜地では土壤条件、地理的条件に恵まれず、更に多大の投下資本と資本の回転効率が低いこと及び農家経済の底の浅さ等から安定規模確立と機械化の充実は容易に達し得ないている場合が多く、本調査地区内農家戸数の半数は占めるであろうこの地帯の常農安定が今後の最も大きな問題の一つであろう。

2. 土壤類型区分及び説明

1) 土壤統一覧及び土壤区一覧

(1) 土壤統一覧

(水 田)

土壤統名	色層序	腐植層序	礫、砂礫層 礫を混在 する砂層	酸 化 沈積物	土 性		泥 炭	黒 泥	グ ラ イ	母 材 堆積様式
					表 土	次 層				
端野中央	YR/YR	表層腐植層	あり	あり	粘 質	粘 質	—	—	—	非固結水成岩 水積 (河成)
相内中央	YR/YR	"	なし	"	"	壤 質	—	—	—	非固結水成岩 水積 (河成)
川向沢	Y/YR	表層腐植層なし	"	"	強粘質	砂 質	—	—	85 cm 以下	非固結水成岩 水積 (河成)
上常呂	YR/Y	表層腐植層	"	"	粘 質	粘 質	—	—	—	非固結水成岩 水積 (河成)
端野中央西	YR/Y	"	"	"	強粘質	強粘質	—	—	—	非固結水成岩 水積 (河成)
相内北	Y/Y	"	"	"	粘 質	壤 質	—	—	40cm 以下	非固結水成岩 水積 (河成)
若松中央	YR/GY	表層腐植層なし	あり	"	強粘質	強粘質	—	—	50cm 以下	非固結水成岩 水積 (河成)
広郷南	YR/YR	表層多腐植層	なし	なし	粘 質	—	全層	—	全層	ヨシ 集積

(畑)

土壤統名	色層序	腐植層序	礫、砂礫層 礫を混在 する砂層	酸 化 沈積物	土 性		母 材 堆 積 様 式
					表 土	次 層	
南 丘	YR/YR	表層腐植層	あり	なし	粘 質	粘 質	固結水成岩 残積
開成東	YR/YR	表層腐植層なし	"	"	壤 質	壤 質	固結水成岩 残積
常川南	YR/YR	表層腐植層	"	"	"	"	固結水成岩 残積
柏 木	YR/YR	表層腐植層なし	なし	"	粘 質	"	固結水成岩 残積
本沢西	YR/YR	表層腐植層なし	"	"	壤 質	"	固結水成岩 残積
開 拓	YR/YR	表層腐植層	"	"	粘 質	強粘質	非固結水成岩 洪積
広 郷	YR/YR	表層腐植表	"	"	"	壤 質	非固結水成岩 洪積

土壌統名	色層序	腐植層序	礫,砂礫層 礫を混在 する砂層	酸 化 沈 積 物	土 性		母 材 堆 積 様 式
					表 土	次 層	
若 松 東	YR/YR	表層腐植層	なし	あり	壤 質	粘 質	非固結水成岩 洪積
福 野	YB/YR	表層腐植層	"	なし	粘 質	"	非固結水成岩 洪積
広 郷 東	YB/Y	表層腐植層	"	あり	"	壤 質	非固結水成岩 洪積
美 里 北	YR/YR	表層腐植層なし	"	"	強粘質	強粘質	非固結水成岩 洪積
柏 木 南	YB/YR	表層腐植層なし	"	"	粘 質	壤 質	非固結水成岩 洪積
昭 栄 中 央	YB/YR	表層腐植層なし	あり	なし	強粘質	粘 質	非固結水成岩 水積 (河成)
大 正 沢	YB/YR	表層多腐植層	なし	あり	"	強粘質	非固結水成岩 水積 (河成)
仁 頃 中 央	YB/YR	表層腐植層なし	"	"	粘 質	"	非固結水成岩 水積 (河成)
北 陽	YB/YR	表層腐植層なし	あり	なし	壤 質	壤 質	非固結水成岩 水積 (河成)
本 沢	YB/YR	表層腐植層なし	"	あり	粘 質	粘 質	非固結水成岩 水積 (河成)
端 野 東	YB/YR	表層腐植層なし	"	なし	砂 質	砂 質	非固結水成岩 水積 (河成)
開 成 中 央	YB/YR	表層腐植層	なし	"	粘 質	強粘質	非固結水成岩 水積 (河成)
川 向 南	YB/Y	表層腐植層なし	"	あり	"	"	非固結水成岩 水積 (河成)
川 向 中 央	YB/YR	表層腐植層	あり	なし	壤 質	壤 質	固結水成岩 崩積
北 陽 南	YB/YR	表層腐植層	なし	"	"	"	固結水成岩 崩積
仁 頃	YB/YR	表層腐植層	あり	"	粘 質	粘 質	固結水成岩 崩積
仁 頃 南	YB/YR	表層腐植層なし	"	"	"	壤 質	固結水成岩, 変成岩 崩積
端 野 西	YB/YR	表層腐植層なし	"	"	"	粘 質	固結水成岩, 変成岩 水積 (扇状堆土)
大 和	YB/YR	表層腐植層	なし	あり	壤 質	強粘質	固結水成岩, 変成岩 水積 (扇状堆土)
開 成 南	YB/YR	表層腐植層	あり	なし	"	"	固結水成岩, 変成岩 水積 (扇状堆土)

土壤統名	色層序	腐植層序	礫,砂礫層 礫を混在 する砂礫	酸 化 沈積物	土 性		母 材 堆 積 様 式
					表 土	次 層	
仁 頃 河 岸	YB/YR	表層多腐植層	なし	あり	粘 質	強粘質	非固結水成岩 水積 (扇状堆土)
仁 頃 河 段	YB/YR	表層多腐植層	"	"	強粘質	強粘質	非固結水成岩 水積 (扇状堆土)

(2) 土 壤 区 一 覧
(水 田)

土 壤 区 分	簡略分級式	面 積 (ha)	備 考
端野中央 - 端野中央	II t d l	678	
相 内 - 相 内	II l f	354	
川 向 沢 - 川 向 沢	II t p l	61	
上 常 呂 - 上 常 呂	II t d l f n	779	
端野中央西 - 端野中央西	II p r f n	66	
相 内 北 - 相 内 北	II p l f n	329	
若 松 中 央 - 若 松 中 央	II t p l	85	
広 郷 南 - 広 郷 南	III n II l f	145	

(畑)

土 壤 区 分	簡略分級式	畑面積 (ha)	備 考
南 丘 - 南 丘	III s II t d g e	48	調査面積 81
開 成 東 - 開 成 東	III s II t d g i s e	105	174
常 川 南 - 常 川 南	III s II t d e	161	270
柏 木 - 柏 木	III s II t d e	373	622
本 沢 西 - 本 沢 西	II t n s e	277	462
開 拓 - 開 拓	III e II t f n s	683	1,140
広 郷 - 広 郷	II t s e	275	458
若 松 東 - 若 松 東	II n s e	887	1,481
福 郷 野 - 福 郷 野	II t n s e	554	924
広 郷 東 - 広 郷 東	III d w n II t p f i s e	185	308
美 里 北 - 美 里 北	III d w s e II t p n i	301	504
柏 木 南 - 柏 木 南	III d n II t p w i s e	60	100
昭 栄 中 央 - 昭 栄 中 央	II t d f n	234	391
大 正 沢 - 大 正 沢	III w II t p f n	55	92
仁 頃 中 央 - 仁 頃 中 央	II t p w	257	430
北 陽 - 北 陽	III d II t f i (w)	195	326
本 沢 - 本 沢	III w II t d g	277	462
端 野 東 - 端 野 東	II t d f	889	1,484
開 成 中 央 - 開 成 中 央	II t p	32	53

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	畑面積 (ha)	備 考
川 向 南—川 向 南	Ⅲ w Ⅱ t p f n	51	調査面積 86
川向中央—川向中央	Ⅲ s Ⅱ t d i e	1,542	2,574
北 陽 南—北 陽 南	Ⅲ s Ⅱ t f e	200	334
仁 頃—仁 頃	Ⅲ s Ⅱ t d g p e	759	1,268
仁 頃 南—仁 頃 南	Ⅲ s Ⅱ t d n i e	527	880
端 野 西—端 野 西	Ⅱ t d g s e	130	216
大 和—大 和	Ⅲ d Ⅱ t g p i s e	445	742
開 成 南—開 成 南	Ⅲ d Ⅱ t n i s e	19	27
仁 頃 河 岸—仁 頃 河 岸	Ⅱ t f	300	501
仁 頃 河 段—仁 頃 河 段	Ⅲ w Ⅱ t f n	114	189

2) 土壌統別説明

端 野 中 央 統

(水 田)

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ120cm内外で腐植含量6%内外，土性CLが主である。色は10YRで彩度1，明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。糸根状酸化沈積物あり，ち密度1.4で疎，pH(H₂O) 5.5～6.0。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量7～8%，土性はCLが主である。色は10YRで彩度1，明度2のものが多い。未風化小円礫を含み，角柱状構造で発達程度は弱度である。膜状の酸化沈積物を含み，ち密度2.0で中，pH(H₂O) 5.5～6.0。下層との境界は波状明瞭である。

第3層は厚さ10cm内外で腐植含量7～8%，土性はLiCが主である。未風化小円礫を含む，色は10YRで彩度1，明度2のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.5～1.8で疎，pH(H₂O) 6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は厚さ20cm内外で腐植含量4%前後，土性はSLが主である。未風化小円礫に富む，色は7.5YRで彩度3，明度3～4。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.5で疎，pH(H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状明瞭である。

第5層は地表下おおむね40cm以下で，未風化小円礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 常呂郡端野町字三区 試坑No.北 35

第1層	0~12cm	腐植に富む黒色(10YR2/1)のCL, 発達弱度の細粒状構造, 糸根状の酸化沈積物を含む, ち密度1.4で疎, pH(H ₂ O) 5.7, 調査時の湿り潤, 境界平坦明瞭。
第2層	12~18cm	腐植に富む黒色(10YR2/1)のCL, 未風化小円礫を含む, 発達弱度の角柱状構造, 膜状の酸化沈積物を含む, ち密度2.0で中, pH(H ₂ O) 5.9, 調査等の湿り湿, 境界漸変。
第3層	18~26cm	腐植に富む黒色(10YR2/1)のLiC, 未風化小円礫を含む。発達弱度の細粒状構造, 小中孔に富む, ち密度1.8で疎, pH(H ₂ O) 5.9 調査時の湿り半乾, 境界波状明瞭。
第4層	26~43cm	腐植を含む褐色(7.5YR4/3)のSL, 未風化小円礫に富む, 発達弱度の粒状構造, 小中孔に富む, ち密度1.5で疎, pH(H ₂ O) 6.2 調査時の湿り半乾, 境界明瞭。
第5層	43~	未風化小円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~12	3.2	22.3	26.1	29.6	22.0	CL	3.70	0.36	10	6.4
2	12~18	2.3	19.8	28.5	28.8	22.9	CL	4.90	0.49	10	8.5
3	18~26	1.6	38.5	16.1	19.5	25.9	LiC	4.79	0.48	10	8.1
4	26~43	3.1	45.5	27.2	14.0	13.3	SL	2.63	0.36	8	4.3

層位	pH		置換 酸度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石 灰 飽 和 %	磷 吸 收 係 数	有 効 磷 酸 me/100g	乾 土 効 果	30°C NH ₃ -N 発 生 量 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					乾 土 湿 度	遊 離 鉄 %	
1	5.7	5.2	1.2	39.6	15.1	1.2	0.2	38.1	989	21.9	17.4	22.9	5.5	0.84
2	5.9	5.1	1.2	38.3	18.2	0.9	0.3	47.5	1,160	10.6	10.9	10.8	0	1.67
3	5.9	5.1	0.7	43.9	18.9	2.0	0.4	43.1	1,225	4.5	6.7	9.4	2.7	-
4	6.2	5.0	1.9	36.2	11.0	0.4	0.6	30.4	1,690	2.9	0	3.3	3.3	-

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては端野東統, 相内中央統, 上常呂統, 端野中央西統があるが, 何れも腐植層序が異なるので区別される。

A-3 母材, 非固水成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地 形

常呂川流域に分布

C 気 候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃, 年間降水量 800 mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分は水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

礫層が浅く漏水し易いから塩基の流亡、養分の流亡損失が問題になる。施肥面において窒素の施用に注意が必要である。稲作限界地域のため健苗育成、初期生育の促進、品種の選択が特に必要である。

F 分 布

調査及び記載責任者 高尾欽弥 (北海道中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壤統の細分

(1) 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
端野中央—端野中央	II t d l

(2) 土壤区別説明

端野中央—端野中央

示性分級式 (水田)

土	表	有	表	耕	湛	酸	土	自	養	障	災																																								
壤	効	土	土	土	の	の	の	透	保	固	土	置	有	微	酸	障	有	物	増	地																															
生	土	土	土	土	土	土	土	の	然	層	分	換	"	"	"	"	効	害	理	冠	す																														
産	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の																										
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の																										
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の																										
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の																										
性	厚	深	含	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性																										
等	級	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性																										
	t	d	g	p		l		r		w		f		n								i		a																											
④	II	II	I	I	I	3	1	(2)	II	2	2	I	3	2	1	---	I	1	2	2	I	1	1	2	1	2	---	1	1	I	1	1	I	1	1	I	1	1	1	I	1	1	I	1	1	I	1	1	I	1	1
④	II	II	I	I	I	3	1	(2)	---	---	---	---	---	---	---	---	I	2	2	1	II	1	2	2	I	1	1	2	1	---	1	2	I	1	1	I	1	1	I	1	1	I	1	1	I	1	1				
簡略分級式 II t d l																																																			
④ II t d II f																																																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は端野中央統に属する。表士の厚さは25~30cmで深く、有効土層は40~50cmである。作土の土性は中粒質で粘着性中庸で耕起砕土は容易である。湛水透水性大で、グライ層なく水稻の根系障害のおそれはない。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態は中庸で自然肥沃度は中位である。作土の養分含量はやや多い方であるが、加里は少い。特殊の障害性、災害性は存在しない。

本区は凝灰質（軽石風化物）を母材とした透水良好な乾田で、水田化作用は極く少く殆んど畑状態に近似している漏水気味な水田土壌である。

B 植生及び利用状況

大部分水稲が単作されている。

C 地力保全上の問題点

埴質土壌の客入、燐酸、加里の増施が望ましく、また気象条件に合致した窒素の施用が必要である。

D 分 布

記載責任者 高尾欽弥（北海道中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

相 内 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～28cmで腐植含量10%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。

糸根状酸化沈積物を含む、ち密度15前後で疎、pH(H₂O)5.5～6.0。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20～30cmで腐植含量2%以下、土性はLが主である。色は10YRで彩度5、明度7の場合が多い。板状構造を呈し、細小孔に富む膜状、雲状の酸化沈積物に富む。ち密度15～18で疎、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ30cm内外で腐植を欠き、土性はSLが主である。色は10YRで彩度2、明度7のものが多い。塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む。膜状、網状の酸化沈積物に富む。ち密度15～18で疎、pH(H₂O)6.0～6.3。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下おおむね80cm以下で未風化小中大円礫層からなる。

代表的断面形態

所在地 北見市東相内 試坑北47

第1層	0～15cm	腐植に富む黒色(10YR 2/1)のCL, 発達弱度の粒状構造, ち密度15で疎, PH(H ₂ O)5.8, 糸根状酸化沈積物を含む。調査時の湿り潤, 境界平坦明瞭。
第2層	15～50cm	腐植あり灰黄橙(10YR 7/5)のL, 板状構造, 細小孔に富む, 膜状, 雲状の酸化沈積物に富む, ち密度17で疎, PH(H ₂ O)6.0, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第3層	50～80cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR 7/2)のSL, 発達弱度の塊状構造, 細小孔に富む, 膜状, 網状酸化沈積物に富む, ち密度17で疎, PH(H ₂ O)6.3, 調査時の湿り湿, 境界波状明瞭。
第4層	80cm～	未風化小中大円礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~28	2.8	4.9	39.1	32.9	23.1	CL	5.49	0.53	10	9.5
2	28~50	0.9	2.7	55.0	28.2	14.1	L	0.70	0.09	8	1.2
3	50~80	1.0	4.9	64.9	20.6	9.6	SL	-	-	-	-

層位	H		置換 酸度 Y ₁	塩基置 換容量 mg/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	燐 酸 吸 収 係 数 %	有 効 態 磷 酸 mg/100g	乾 土 効 果	30°C NH ₃ -N 発 生 量 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					乾 土	湿 度	
1	5.8	5.1	0.8	51.2	20.9	1.1	0.4	40.8	1,070	13.6	2.5	10.6	8.1	0.91
2	6.0	4.8	0.8	22.5	14.6	2.9	0.2	64.8	880	1.2	0.8	1.4	0.6	1.09
3	6.3	5.0	0.8	21.9	14.9	3.0	0.2	68.0	787	tr	-	-	-	-

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては相内北統，昭栄中央統，端野中央統，上常呂統等があるが，相内北統とは母材，堆積様式が異り，昭栄中央統，端野中央統とは乾湿が異り，上常呂統とは堅密層の有無により夫々本統と区別される。

B 地 形

無加川流域の低平地

C 気 候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C，年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され，水稻が単作されている。

E 農業上の留意事項

稲作限界地帯に位置するから健苗育成，初期生育の促進，気象条件に合致した品種の選定が必要である。

F 分 布

北見市無加川流域の一部

調査及び記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

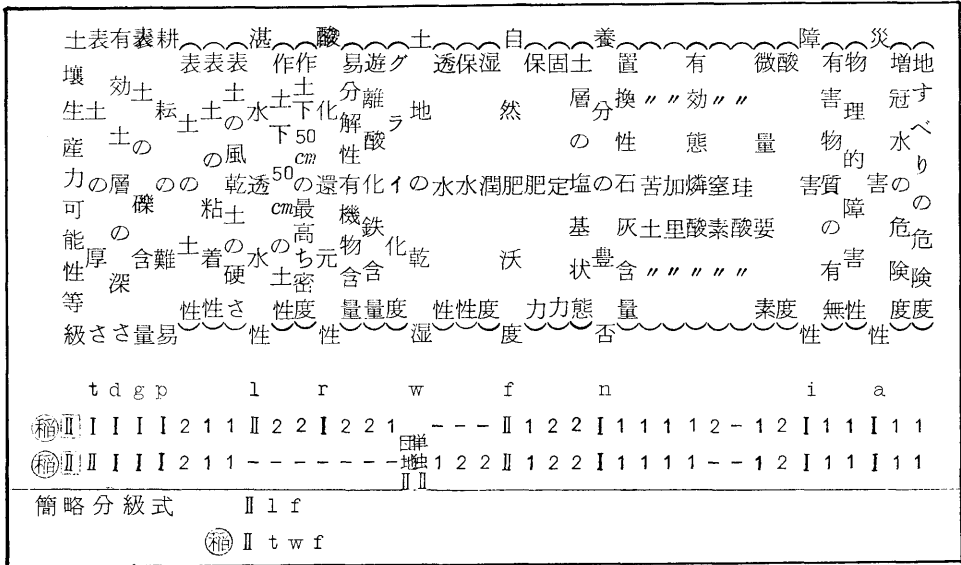
(1) 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
相内中央 - 相内中央	II 1 f

(2) 土壌区別説明

相内中央 - 相内中央

示 性 分 級 式 (水田)



A 土壤区の特徴

この土壤区は相内中央統に属する。作土の厚さは15〜20cmで深く,有効土層も80cm内外で深い。作土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。湛水透水性中,グライ化度比較的弱く水稻の根系障害のおそれはない。

保肥力大,燐酸固定力中で土層の塩基状態は中庸である。作土の養分含量は比較的存在する。下層は燐酸,苦土が少い。特殊の障害性,災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて水稻が単作されている。

C 地力保全上の問題点

燐酸,加里の増施が必要である。

D 分 布

北見市無加川流域の一部

記載責任者 高尾欽弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

川 向 沢 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ14cm内外で腐植含量4%内外,土性はCLが主である。色は7.5Yで彩度1,明度4のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。膜状,糸根状酸化沈積物を含み,ち密度10前後で疎, pH (H₂O) 5.0〜5.0。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量2%以下、土性はLSが主である。色は7.5Yで彩度1、明度5のものが多い。均質連結状で角柱状に亀裂あり、膜状の酸化沈積物に富む、ち密度1.9前後で中、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度5、明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。マンガン斑を含む。ち密度1.0~1.5で疎、pH(H₂O)6.0~6.5。下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はSである。色は10YRで彩度2、明度7のものが多い。単粒構造、ち密度1.2で疎、下層との境界は波状明瞭である。

第5層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はCが主である。色は10YRで彩度1、明度7のものが多い。均質連結状で雲状、管状の酸化沈積物に富む。ち密度1.2で疎、下層との境界は平坦明瞭である。

第6層は地表下80~90cm以下で腐植を欠き、土性はS~SLである。色は7.5GY彩度1、明度4のものが多い。単位構造でグライを呈す。

代表的断面形態

所在地 常呂郡端野町字川向 試坑No北61

第1層	0~14cm	腐植を含む灰色(7.5Y4/1)のCL, 発達弱度の粒状構造, 膜状, 糸根状酸化沈積物を含む。ち密度1.0で疎, PH(H ₂ O)6.0, 調査時の湿り湿, 境界平坦明瞭。
第2層	14~25cm	腐植を含む灰色(7.5Y5/1)のLS, 均質連結状, 亀裂あり, 膜状の酸化沈積物に富む。ち密度1.9で中, PH(H ₂ O)6.0, 調査時の湿り湿, 境界波状明瞭。
第3層	25~43cm	腐植を欠く黄褐(10YR5/3)のLiC, 発達弱度の粒状構造, 細小孔に富み, 雲状, 斑状の酸化沈積物を含む, ち密度1.2で疎, pH(H ₂ O)6.4, 調査時の湿り湿, 境界明瞭。
第4層	43~65cm	腐植を欠く灰褐(7.5YR7/2)のS, 単粒構造, 雲状の酸化沈積物を含む, ち密度1.2で疎, 調査時の湿り湿, 境界波状明瞭。
第5層	65~85cm	腐植を欠く灰褐(10YR7/1)のC, 均質連結構造, 雲状, 管状の酸化沈積物に富む。ち密度1.2で疎, 調査時の湿り湿, 境界平坦明瞭。
第6層	85cm~	腐植を欠く青色(7.5GY4/1)のSL, 均質連結状, ち密度1.2で疎, グライを呈す。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~14	1.1	9.6	45.7	23.8	20.9	C L	2.83	0.33	9	4.9
2	14~25	0.6	63.0	22.5	7.9	7.9	L S	1.70	0.20	9	2.9
3	25~43	4.1	2.3	48.9	19.8	29.0	LiC	-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 me/100g	乾度効果	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		遊離酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
1	5.3	4.8	1.90	26.0	14.0	6.0	0.1	53.8	1.030	13.9	15.0	22.9	7.9	13.9
2	6.0	4.7	2.10	24.7	20.3	3.9	0.3	82.1	1.130	20.3	10.4	10.4	0	20.3
3	6.4	4.9	0.30	27.8	22.6	5.9	-	81.2	1.210	-	-	-	-	-

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては川向中央統, 若松東統, 若松中央統があるが, 川向中央統, 若松東統は畑土壌でかつ堆積様式が異り, 若松中央統とは母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(砂岩風化物及び凝灰質)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地 形 常呂川支流の低平地

C 気 候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置により, しばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C, 年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分は耕地に利用され, 主として水稲が栽培されている。

E 農業上の留意事項

堆厩肥, 素わらの施用, 磷酸, 加里を増施することが必要であろう。

滲透水の影響によつて地下水位の高いところは明渠, 暗渠排水の必要がある。

F 分 布 北見市

調査及び記載責任者 高尾欽弥(北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土 壌 区 分	簡 略 分 級 式
川向沢-川向沢	II t p l

(2) 土壌区別説明

示 性 分 級 式 (水田)

土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
効	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
産	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
性	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
厚	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
等	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
級	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
さ	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
t	d	g	p																
Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⅲ	3	2	1	Ⅲ	1	2	Ⅲ	3	2	1	Ⅲ	3	2	1	Ⅲ
Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⅲ	3	2	1	Ⅲ	1	2	Ⅲ	3	2	1	Ⅲ	3	2	1	Ⅲ
簡略分級式 II t p l Ⓜ Ⅲ t p w																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は川向沢統に属する。作土の厚さは14cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。洪水透水性中庸、易分解性有機物含量比較的多いが還元化は比較的弱く水稲の根系障害のおそれは少い。

保肥力大、磷酸固定力中、土層の塩基状態は良好である。作土、心土とも加里含量が少い。特殊の障害性、災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、主として水稲が単作されている。

C 地力保全上の問題点

堆厩肥、素わら等の有機物を施用し、加里、磷酸を増施することが望ましい。一部排水不良を呈する。から明渠排水の整備或は暗渠排水の実施が必要である。

D 分 布 北見市

調査及び記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

上 常 呂 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10~15cmで腐植含量7~8%、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度2、明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。

糸根状酸化沈積物あり、ち密度12で疎、pH(H₂O) 5.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外腐植含量7~9%、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度2、明度2のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度である。膜状の酸化沈積物及びマンガン斑様結核ありち密度20前後で中、下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ10cm内外で腐植を欠き、土性はCL-Cである。色は7.5Yで彩度1、明度7のものが多い。構造極めて不鮮明、膜状酸化沈積物及びマンガン斑状結核あり、ち密度23前後で中、PH(H₂O) 6.0前後、下層との境界は波状漸変である。

第4層は厚さ10cm内外で腐植を欠き、土性はCが主である。色は7.5Yで彩度1、明度7のものが多い。構造極めて不鮮明、雲状の酸化沈積物を含み、マンガン斑様結核を含む。ち密度25~28で密、下層との境界は波状漸変である。

第5層は地表下おおむね40cm以下で腐植を欠き、土性はCLが主である。

風化細小半角礫に富み、均質連結状、マンガン斑様結核に富む。ち密度29~30で甚密。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 北見市字上常呂 試坑No北54

第1層	0~13cm	腐植に富む黒色(7.5YR2/2)のCL, 発達弱度の粒状構造, 糸根状酸化沈積物あり, ち密度12で疎, pH(H ₂ O) 5.1, 調査時の湿り湿。境界平坦漸変。
第2層	13~22cm	腐植に富む黒色(7.5YR2/2)のCL, 発達弱度の細塊状構造, 膜状酸化沈積物あり, ち密度22で中, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。

第3層	22~30cm	腐植を欠く灰色(7.5Y7/1)のCL, 構造極めて不鮮明, 雲状酸化沈積物及びマンガン斑様結核を含む。ち密度23で中, PH(H ₂ O)6.3 調査時の湿り湿, 境界波状明瞭。
第4層	30~40cm	腐植を欠く灰色(7.5Y7/1)のC, 発達弱度の塊状構造, マンガン斑様結核を含む, 雲状の酸化沈積物を含む, ち密度27で密, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第5層	40cm~	腐植を欠く灰色(7.5Y7/1)のCL, 風化, 腐朽細小礫に富む。均質連結状, マンガン斑様結核に富む, ち密度29前後で甚密, 調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~13	2.1	7.2	37.3	33.0	22.5	CL	4.42	0.39	11	7.6
3	22~30	2.7	11.2	23.8	40.6	24.4	CL	0.47	0.05	9	0.8

層位	PH		置換 酸度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰 飽和 度%	磷酸 吸収 係数	有効態 磷酸 mg/100g	乾土 効果	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		遊離 酸化 鉄%
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
1	5.1	4.7	3.0	28.4	11.7	0.7	0.7	41.1	8.24	11.4	13.6	19.1	5.5	0.26
3	6.3	5.0	0.5	20.1	12.7	1.4	1.0	63.2	5.63	4.5	0.2	14.2	14.0	1.11

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては端野中央統, 端野東統, 若松東統があるが, 端野中央統とは乾湿, 礫層, 堅密層の有無に差異があり, 端野東統とは乾湿, 母材が異り, 若松東統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 常呂川, 無加川流域の低平地

C 気候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6°C, 年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され, 主として水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

稲作限界地域に位置するから気象条件に合致した品種の選定, 健苗育成, 初期生育の促進を図ることが必要事項となる。暗渠排水の施工が望ましい。

F 分布 北見市字上常呂, 北光, 豊地の一部

調査及び記載責任者 高尾欽弥(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
上常呂一上常呂	II t d l f n

② 土壤区別説明

上常呂一上常呂

示性分級式(水田)

	土表有表耕	壤効土	表土	表土	溝土	作土	作土	易分	遊離	土化	透濕	自保	固土	養置	有	微酸	障有	災增	地冠																	
	産土	の層	の層	の層	の層	の層	の層	の層	の層	の層	の層	の層	の層	の層	の層	の層	の層	の層	の層	の層																
	力	可	能	性	厚	等	級	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性																
	t	d	g	p	l	r	w	f	n	i	a																									
①	II	II	II	I	I	2	2	1	II	2	2	I	2	3	1	---	II	1	2	2	II	1	2	1	1	2	---	1	2	I	1	1	I	1	1	
②	II	II	II	I	I	2	2	1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	簡略分級式 II t d l f n																																			
	③ II t d l l w f n i																																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は上常呂統に属する。作土の厚さは15 cm内外で中庸、有効土層は40 cm内外で中庸である。溝水透水性中である。易分解性有機物含量中、遊離酸化鉄含量少いが、還元化は弱く水稻の根系障害のおそれは少い。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態は中庸である。作土は置換性苦土、有効態窒素中庸で、遊離酸化鉄含量が少い。下層は磷酸が少い。

特殊の障害性、災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、主として水稻が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

暗渠排水の実施、磷酸、加里の増施が必要である。

D 分布

北見市宇上常呂、北光、豊地の一部

記載責任者 高尾欽弥 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

端 野 中 央 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量7~8%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度2のものが多い。粒度構造で発達程度は弱度である。

膜状酸化沈積物を含み、ち密度10~15で疎、 $P^H(H_2O)$ 5.5~6.0。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~20cmで腐植含量6~7%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度1のものが多い。角柱状構造を呈し、膜状の酸化沈積物を含み、細孔を含む。ち密度14~15で疎、 $P^H(H_2O)$ 6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ30cm内外で腐植含量2%以下、土性はSLが主である。色は2.5Yで彩度2、明度6のものが多い。単粒構造、斑状、管状の酸化沈積物を含む。ち密度18~22で $P^H(H_2O)$ 6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は厚さ10cm内外で腐植含量5%内外、土性はCが主である。色はNで明度4のものが多い。地質連結状、ち密度18前後で疎、下層との境界は平坦明瞭である。

第5層は地表下おおむね80cm以下で腐植を欠き、土性はSが主である。色は2.5Yで彩度2、明度7のものが多い。単粒構造、ち密度17前後で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡端野町字三区 試坑№北38.

第1層	0~20cm	腐植に富む黒色(10YR2/1)のLiC, 発達弱度の粒状構造, 膜状の酸化沈積物を含む, ち密度12で疎, $P^H(H_2O)$ 5.7, 調査時の湿り湿, 境界平坦明瞭。
第2層	20~37cm	腐植に富む(10YR1/1)のLiC, 角柱状構造, 膜状酸化沈積物を含む, ち密度14で疎, $P^H(H_2O)$ 5.9, 調査時の湿り湿, 境界平坦明瞭。
第3層	37~77cm	腐植を欠く灰褐(2.5Y6/2)のSL, 単粒構造, 斑状, 管状の酸化沈積物を含む, ち密度22で中, $P^H(H_2O)$ 6.2, 調査時の湿り湿, 境界平坦明瞭。
第4層	77~82cm	腐植に富む灰色(N4/0)のC, 均質連結状, ち密度18で疎, 調査時の湿り湿, 境界平坦明瞭。
第5層	82~	腐植を欠く灰褐(2.5Y7/2)のS, 単粒構造, 斑状, 管状の酸化沈積物を含む, ち密度17で疎, 調査時の湿り潤。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~20	4.9	8.8	32.5	33.6	25.1	LiC	4.89	0.44	11	8.4
2	24~37	4.9	8.3	26.8	30.2	34.7	LiC	4.10	0.36	11	7.0
3	37~77	1.8	18.1	5.43	15.5	12.1	SL	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	腐植酸 収率数	有効態 燐酸 mg/100g	乾土 効果	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		遊離酸 化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
1	5.8	5.1	1.4	43.7	17.4	0.5	0.01	39.8	1,320	12.2	9.4	15.3	5.9	12.2
2	5.8	5.2	0.5	48.8	22.4	1.9	0.4	45.9	1,195	8.0	9.9	17.4	7.5	13.8
3	6.0	5.0	0.5	19.2	7.7	0.6	0.4	40.1	331	2.0	—	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては端野中央統，端野東統，開拓統等があるが，端野中央統とは堆積様式が異り，端野東統，開拓統は畑土壌であり堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形 常呂川流域の低平地から山地に接続する緩斜面。

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C，年間降水量 800mm 前後

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され，主として水稲が単作されている。

E 農業上の留意事項

稲作限界地帯に位置するから気象条件に合致した品種の選定，健苗育成，初期生育の促進等が特に必要である。堆肥の施用，燐酸，加里の増施，苦土の施用等が必要である。地下排水が不良であるから暗渠排水の施工が必要である。

F 分布 北見市字小泉の一部

調査及び記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
端野中央西 - 端野中央西	II P r f n

② 土壌区別説明

端野中央西 - 端野中央西

膜状，糸根状酸化沈積物あり，ち密度10以下で頗る疎，PH (H₂O) 5.5前後。

下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量3%内外，土性はLが主である。色は5YRで彩度6，明度2のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度である。膜状，雲状の酸化沈積物に富む，ち密度18前後で疎，PH (H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状明瞭である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下，土性はLiCが主である。色は7.5Yで彩度1，明度5のものが多い。塊状構造で発達程度は弱度である。雲状の酸化沈積物あり，ち密度18前後で疎，PH (H₂O) 5.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下おおむね60cm以下で腐植を欠き，土性はHCである。色は7.5GYで彩度1，明度5のものが多い。均質連結状，ち密度15前後で疎。

代表的断面形態

所在地 北見市字相内 試坑No北53

第1層	0~19cm	腐植に富む灰色(7.5Y4/1)のCL，発達弱度の粒状構造，膜状，糸根状酸化沈積物あり，ち密度7で頗る疎，PH (H ₂ O) 5.5，調査時の湿り潤，境界平坦明瞭。
第2層	19~40cm	腐植を含む灰褐(5YR6/2)のL，発達弱度の細塊状構造，膜状，雲状の酸化沈積物に富む，ち密度18で疎，PH (H ₂ O) 6.0，調査時の湿り湿，境界波状漸変。
第3層	40~60cm	腐植あり灰色(7.5Y5/1)のLiC，発達弱度の塊状構造，雲状の酸化沈積物あり，ち密度18で疎，PH (H ₂ O) 5.1，調査時の湿り湿，境界波状漸変。
第4層	60~	腐植を欠く青色(2.5GY5/1)のHC，単粒構造，ち密度14で疎，調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~19	1.4	10.5	41.4	28.4	19.7	CL	4.43	0.43	10	7.6
2	19~40	3.3	50.8	14.0	20.4	14.8	L	1.74	0.16	11	3.0
3	40~60	3.4	4.4	28.0	28.9	38.7	LiC	1.01	0.11	9	1.7

層位	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸	乾土 効果	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g		遊離酸 化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
	1	5.5			5.1	1.7	39.0					15.2	4.1	
2	6.0	5.5	0.2	30.1	26.1	6.0	0.8	52.1	1.760	5.8	1.5	3.0	2.5	2.7
3	5.1	4.4	10.0	50.2	20.2	9.6	0.2	38.8	1.660	2.1	—	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては相内中央統，端野中央統，本沢統，昭栄中央統等があるが，相内中央統，端野中央西統とは母材の差異，グライ層の有無により，本沢統，昭栄中央統は畑土壤で堆積様式が異なる。

ので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（赤色珪岩風化物主）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形 無加川流域の低平地から山地に連なる3~5°の扇状地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃、年間降水量800cm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、主として水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

明渠、暗渠排水を完備することが必要である。稲作限界地帯に位置するため気象条件に合致した品種の選定、健苗育成初期生育の促進が必要である。

F 分布 北見市相内の一部

調査及び記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区分	簡略分級式
相内北一相内北	llp1fn

② 土壌区別説明

相内北一相内北

示性分級式（水田）

土表有表耕	表表表	湛	酸	易遊	土	透保	自	養	置	有	微酸	障	災
壤	効	表	作	分	遊	湿	然	固	換	効	量	有	増
生	土	土	土	離	地		層	土	"	"	"	害	冠
産	土	土	土	ラ			の	性	態			物	す
力	の	の	の	性			の	性				的	べ
可	の	乾	透	還	有	化	イ	水	潤	肥	定	塩	の
能	の	粘	50	機	鐵	化	乾	沃	基	灰	土	里	酸
厚	難	土	着	高	物	含	沃	沃	状	豊	含	"	"
性	深	含	硬	土	密	含	沃	沃	沃	沃	沃	"	"
等	性	性	性	性	性	性	性	性	力	力	態	量	素
級	さ	量	易	性	性	量	量	度	性	性	度	否	度
	t	d	g	p									
	l				r								
								w					
									f				
										n			
											i		a
①	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll
②	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll
簡略分級式	llp1fn												
③	llwllpfn												

A 土壌区の特徴

この土壌区は相内北統に属する。作土の厚さは20cm内外で深く、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は中粒質で粘着性やや強く耕起碎土はやや困難である。湛水透水性中、易分解性有機物含量多く、遊離酸化鉄含量多い、還元化はやや進むが地温の上昇が高くないため水稻の根系障害のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力強大で土層の塩基状態は中庸である。作土、心土とも有効態磷酸、置換性加里が少い。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況 大部分耕地に利用され、主として水稻が栽培されている。

C 地力保全上の問題点 明渠、暗渠排水を実施すること、磷酸、加里を増施することが必要である。

D 分布 北見市字相内の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

若 松 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量3~5%、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度3、明度5のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。糸根状酸化沈積物を含む。ち密度10前後で疎、 $P^H(H_2O)$ 6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cmで腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度3、明度7のものも多く、これに5YR5/8のものを混ざる。柱状構造を呈し、細小孔を含む。雲状、管状の酸化沈積物に富む。ち密度15前後で疎、 $P^H(H_2O)$ 5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ20~30cmで腐植を欠き、土性はCLが主である。色は7.5YR7/4と5YR5/8の混色、柱状構造、細小孔に富む。雲状、管状の酸化沈積物に富む、ち密度15前後で疎、 $P^H(H_2O)$ 5.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は厚さ15cmで腐植を欠き、土性はCLが主である。色は7.5GYで彩度1、明度5のものが多い。均質連結状、ち密度10~15で疎。下層との境界は波状明瞭である。

第5層は厚さ10cm内外で未風化小中円礫層。

第6層は地表下70~80cm以下で、土性はCである。均質連結状を呈し、ち密度10~15で疎。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 北見市字若松 試坑No北67

第1層	0~13cm	腐植を含む褐色(7.5YR5/3)のLiC、発達弱度の粒状構造、糸根状酸化沈積物を含む。ち密度10で疎、 $P^H(H_2O)$ 6.2、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第2層	13~20cm	腐植あり黄褐(10YR7/3)のLiC、柱状構造、細小孔を含む、雲状、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度15で疎、 $P^H(H_2O)$ 5.5、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第3層	20~50cm	腐植を欠く灰褐(7.5YR7/4)と褐色(5YR5/8)の混色のCL柱状構造、細小孔を含む、雲状、管状の酸化沈積物に富む、細小孔を含む、ち密度15で疎、 $P^H(H_2O)$ 4.8、調査時の湿り湿、境界波状漸変

第4層	50~65cm	腐植を欠く青色(7.5GY5/1)のCL, 均質連結状, ち密度1.3で疎, 調査時の湿り潤, 境界明瞭。
第5層	65~75cm	未風化小中円礫層
第6層	75~	腐植を欠く青色(1.0GY6/1)のC, 均質連結状, ち密度1.2で疎, 調査時の湿り潤。

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~13	3.0	5.3	35.5	30.6	28.6	LiC	2.22	0.26	9	3.8
2	13~25	2.4	14.3	30.0	27.4	28.3	LiC	0.44	0.08	6	0.8
3	25~50	4.1	6.7	44.8	24.4	24.1	CL	—	—	—	—

層位	PH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g	乾土 効果	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		遊離 酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
	1	6.2	5.7	0.5	43.1	28.0	5.4	0.3	65.0	1.280	18.6	11.6	18.1	6.5
2	5.5	4.7	0.5	39.1	20.8	9.0	0.9	53.2	1.380	1.6	9.5	10.2	0.7	2.34
3	4.8	4.1	13.49	40.7	13.2	5.6	0.8	32.4	1.395	tr	—	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては開成中央統, 開拓統, 開成東統等があるが, 何れも畑土壌で堆積様式または母材が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩 (赤色珪岩風化物主)

A-4 堆積様式 水積 (河成堆積)

B 地 形 常呂川支流の低平地。

C 気 候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C, 年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され, 主として水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

明渠, 暗渠排水を完備すること, 磷酸, 加里を増施することが必要である。稲作限界地帯に位置するため品種の選定, 健苗の育成, 初期成育の促進等が必要事項となる。

F 分 布 北見市字若松の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

② 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
若松中央 - 若松中央	ll t p l

② 土壤区別説明

若松中央 - 若松中央

示 性 分 級 式 (水田)

土	表	耕	表	表	表	作	作	易	遊	夕	透	保	湿	自	保	固	土	置	有	微	障	有	災	増
壤	効	土	転	土	土	水	下	50	化	解	離	ラ	地	然	層	分	換	〃	〃	効	〃	〃	害	冠
生	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
産	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	厚	難	土	着	硬	水	土	密	高	元	物	化	乾	沃	基	灰	土	里	酸	素	酸	要	の	障
性	深	含	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
	t	d	g	p		l	r		w		f		n		i		a							
①	II	II	II	II	3	3	2	II	1	2	I	2	1	2	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1
②	II	II	II	II	3	3	2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
③	II	II	II	II	3	3	2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
簡易分級式																								

A 土壤区の特徴

この土壤区は若松中央統に属する。作土の厚さは1 3cm内外で中庸、有効土層は1 m以上で深い。作土の土性は細粒質で粘着性強く耕起碎土はやや困難である。湛水透水性中、還元化はやや進むが地温の上昇が高くないので水稻の根系障害のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態はやや良好である。作土は置換性加里少く、下層は磷酸が少く、何れも他の養分は比較的存在する。特殊の障害性、災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況 大部分耕地に利用され、主として水稻が栽培されている。

C 地力保全上の問題点 明渠、暗渠排水を実施すること、磷酸、加里を増施することが必要である。

D 分 布 北見市字若松の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

広 郷 南 統

(1) 土壤統の概況

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量10%内外で、土性は0Lが主である。色は10YRで彩度1、明度2のものが多い。ち密度10以下で頗る疎、 $P^H(H_2O)$ 5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である (火山灰を含む)。

第2層は厚さ10～15cmで、ヨシからなる分解良好な低位泥炭である。色は10YRで彩度2，明度3のものが多い。ち密度10以下で疎， $P^H(H_2O)$ 5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ50cm内外でヨシからなる分解やや良好な低位泥炭である。色は10YRで彩度1，明度2のものが多い。ち密度10以下で頗る疎，下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は地表下おおむね90cm以下で腐植を欠き，土性はSが主である。色は5Yで彩度1，明度7のものが多い。単粒構造。

代表的断面形態

所在地 北見市字広郷 試坑NoLP

第1層	0～23cm	腐植に富む黒色(10YR2/1)のCL，発達弱度の粒状構造，ち密度10以下で頗る疎， $P^H(H_2O)$ 5.6，調査時の湿り湿，境界平坦明瞭
第2層	23～39cm	黒褐(10YR3/2)のヨシを主材とする分解良好な低位泥炭，ち密度10以下で頗る疎， $P^H(H_2O)$ 5.5，調査時の湿り湿，境界平坦明瞭
第3層	39～90cm	黒色(10YR2/1)のヨシを主材とするやや分解良好な低位泥炭，ち密度10以下で頗る疎，調査時の湿り潤，境界平坦明瞭
第4層	90～	腐植を欠く灰褐(5Y7/1)のS，単粒構造，調査時の湿り湿。

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0～23	1.3	1.5.5	3.2.7	3.2.0	1.9.8	CL	5.3.2	0.4.5	1.2	9.2
2	23～39	7.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置 換 酸 度 Y	塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g	乾 土 効 果	30°C N ₂ -N 発 生 量 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O					乾 土	湿 土	
1	5.6	4.6	1.8	35.6	11.5	0.5	0.2	3.2.3	1.0.6.7	1.1.3	1.3.0	1.5.5	2.5	0.5.0
2	5.5	4.8	2.5	8.4.5	3.0.0	3.0	0.3	3.5.5	2.9.6.0	tr	—	—	—	0.5.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては上常呂統，広郷統があるが何れも母材，堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 ヨシ

A-4 堆積様式 集積

B 地 形 常呂川流域の低平地

C 気 候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6°C，年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され，主として水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

明渠，暗渠排水を完備し，磷酸，加里の増施及び苦土の施用が必要である。窒素質肥料の施用は土壌窒素の発現を充分考慮すべきであろう。

F 分布 北見市広郷の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
広郷南一広郷南	Ⅲ n Ⅱ 1 f

② 土壌区別説明

広 郷 南 - 広 郷 南

示 性 分 級 式 (水田)

土表有表耕	(湛	(酸	(土	(自	(養	(障	(災	(地				
壤	表	作	易	透	保	置	有	微	障	有	災	増
効	表	作	遊	湿	固	層	効	酸	害	理	冠	す
土	土	土	離	然	換	の	の	の	害	物	す	べ
産	土	土	地	沃	の	性	性	量	質	的	り	り
力	の	の	性	沃	基	態	態	物	害	害	の	の
可	層	乾	機	沃	灰	量	量	質	害	の	危	危
能	磧	透	鉄	沃	土	含	含	害	障	障	險	險
厚	粘	50	物	沃	甲	有	有	害	害	害	險	險
性	土	cm	化	沃	酸	無	無	害	害	害	險	險
含	着	の	含	沃	素	性	性	害	害	害	險	險
深	硬	最	量	沃	炭	無	無	害	害	害	險	險
等	土	高	量	沃	酸	性	性	害	害	害	險	險
級	性	ち	度	沃	炭	度	度	害	害	害	險	險
さ	性	密	湿	沃	否	力	力	害	害	害	險	險
量	易	度	度	沃	否	熊	量	害	害	害	險	險
易	(性	度	沃	否	量	量	害	害	害	險	險
	t	性	度	沃	否	量	量	害	害	害	險	險
	d	性	度	沃	否	量	量	害	害	害	險	險
	g	性	度	沃	否	量	量	害	害	害	險	險
	p	性	度	沃	否	量	量	害	害	害	險	險
	1	性	度	沃	否	量	量	害	害	害	險	險
	r	性	度	沃	否	量	量	害	害	害	險	險
	w	性	度	沃	否	量	量	害	害	害	險	險
	f	性	度	沃	否	量	量	害	害	害	險	險
	n	性	度	沃	否	量	量	害	害	害	險	險
	i	性	度	沃	否	量	量	害	害	害	險	險
	a	性	度	沃	否	量	量	害	害	害	險	險
③	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	2	1	1	Ⅱ	2	3	3
④	Ⅵ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	2	1	1	Ⅲ	3	4	Ⅳ
簡易分級式	Ⅲ n Ⅱ 1 f											
	④ Ⅳ w Ⅲ n Ⅱ t f											

A 土壌区の特徴

この土壌区は広郷南統に属する。作土の厚さは20cm内外で深く，有効土層も1m以上で深い。作土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起砕土は容易である。湛水透水性は小で，還元化は進むため水稻の根系障害のおそれがある。

保肥力大，磷酸固定力中で土層の塩基状態も中庸である。作土は置換性加里，苦土が少く，遊離酸化鉄も少い。下層は磷酸，加里，遊離酸化鉄が少い。特殊の障害性，災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され，主として水稻が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

明渠，暗渠排水を完備し，客土を要する。磷酸，加里を増施し，苦土を施用すること。窒素の施用に

当つて充分注意することが必要である。

D 分 布 北見市字上常呂の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

南 丘 統

(畑)

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量5~6%, 土性はCLが主である。未風化, 腐朽小中角礫に富む。色は7.5YRで彩度3, 明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10~15で疎, P^H(H₂O) 6.0~6.5。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下, 土性はCLが主である。未風化, 腐朽小中角礫に富む, 色は7.5YRで彩度6, 明度5のものが多い。細塊状構造で発達弱度である。ち密度20前後で中P^H(H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き, 土性はL~SLである。未風化, 風化小中角礫に頗る富む。色は7.5YRで彩度8, 明度5のものである。細塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度20で中, P^H(H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下概ね60cm以下で, 未風化, 風化小中大角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 北見市字南丘 試坑北13

第1層	0~17cm	腐植に富む黒褐(7.5YR2/3)のCL, 未風化, 腐朽小中角礫に富む発達弱度の粒状構造, ち密度12で疎, pH(H ₂ O) 6.4, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	17~38cm	腐植あり明褐(7.5YR5/6)のCL, 未風化, 風化小中角礫に富む, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔に富む, ち密度20で中, P ^H (H ₂ O) 6.0, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変
第3層	38~60cm	腐植を欠く明褐(7.5YR5/8)のL, 未風化, 風化小中大角礫に頗る富む, 発達弱度の細塊状構造, ち密度20で中, P ^H (H ₂ O) 6.0, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第4層	60~	未風化, 風化小中大角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~17	0.5	19.3	35.2	28.7	16.8	CL	3.36	0.30	11	5.8
2	17~38	1.0	23.5	28.9	31.9	15.7	CL	0.71	0.09	8	1.2
3	38~60	0.5	31.3	33.2	2.29	12.6	L	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.4	5.9	0.3	20.5	16.6	1.0	0.5	81.0	727	17.2
2	6.0	4.9	1.0	11.9	6.1	0.3	0.1	51.3	727	2.4
3	6.0	5.3	0.3	10.0	5.5	0.3	0.1	55.0	505	6.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては川向中央統，端野東統があるが何れも堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩（古生層砂岩）

A-4 堆積様式 残積

B 地形 標高100～200mの波状性傾斜地。

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

畑地には牧草，馬鈴薯，麦類等が栽培され，その他は山林原野になつている。

E 農業上留意事項

等高線栽培，緑作帯の設置，牧草栽培等の水蝕防止対策が必要である。

F 分布 北見市宇南丘の一部

調査及び調査記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
南 丘 - 南 丘	III s II t d g e

② 土壌区別説明

南 丘 - 南 丘

頗る富む、色は10 YRで彩度3、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度はやや中中で、細小孔に富む。ち密度20前後で中、p^H (H₂O) 6.0~6.3。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ10~20cmで腐植を欠き、土性はL~CLである。未風化、風化小中角、角礫に頗る富む、色は10 YRで彩度4、明度6のものが多い。塊状構造で発達程度は弱度で、細小孔を含む。ち密度25前後で密下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下概ね50cm以下で、未風化小中大角礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 北見市宇開成 試坑北16

第1層	0~16cm	腐植を含む黒褐(10 YR2/3)のL、未風化、風化細小中半角、角礫に富む、発達弱度の粒状構造、ち密度13で疎、pH(H ₂ O) 6.5、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	16~35cm	腐植を欠く灰黄褐(10 YR5/3)のL、未風化、風化小中半角、角礫に頗る富む、ち密度20で中、pH(H ₂ O) 6.3、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	35~50cm	腐植を欠く灰黄褐(10 YR6/4)のcL、未風化、風化小中大半角、角礫に頗る富む、ち密度25で密、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第4層	50~	未風化小中大角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~14	0.9	16.3	41.1	31.0	11.6	L	2.48	0.23	11	4.3
2	14~35	0.5	32.6	27.6	29.5	10.3	L	—	—	—	0.5

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽和 度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.5	5.7	0.3	18.2	15.0	0.4	0.7	82.4	666	14.9
2	6.3	5.3	0.3	13.9	9.3	1.0	0.3	66.9	606	2.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては川向中央統、若松中央統、開拓統等があるが、何れも堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 固結水成岩(中生層頁岩)

A-4 堆積様式 残 積

B 地 形 標高120~200mの波状性傾斜地。

C 気 候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まれて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃、年降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

一部畑地に利用され牧草，飼料作物，馬鈴薯，麦類等の作物が栽培されており，他は山林原野になっている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培，緑作帯設置，牧草栽培等水蝕防止が必要であり，有機物を施用して深耕することが必要である。

F 分布 北見市宇開成の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
開成東一開成東	Ⅲ s Ⅱ t d g i e

② 土壤区別説明

開成東一開成東

示性分級式(畑)

土表有表耕	土表表表	透保湿	自保固土	養置	障有微酸	障有物	災増地	傾自傾人	侵(耐)				
壤効土	土土土	地	然	層分換	"効	害理	冠す	然斜為	水風				
産土の	土の風			の性	態量	物の	水べり	の	蝕				
力の層の	の乾の水	水潤肥定	塩の石	苦加	日	害質	害の	の	蝕				
能の礫	粘土		基	灰土	里酸要	の障	危危	傾傾	蝕蝕				
性厚含	難土着	乾	沃	状豊含	" " "	有害	険	方					
等深													
級ささ	量易	性性	湿	性性	度	力力	態	量	素度	無性	度度	斜向斜	度性性
t d g p	w	f	n	i	a	s	e						
Ⅲ Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅰ	2 1 1 1	1 1 2 1	1 1 2 1	1 1 1 1	1 1 3 1 1 1 1	1 1 2 1 1 1	Ⅲ 3 -- Ⅱ 2 1 1						
簡略分級式 Ⅲ s Ⅱ t d g i e													

A 土壤区の特徴

この土壤区は開成東統に属する。作土の厚さは15 cm内外で中庸がやや浅く，有効土層は50 cm内外で中庸である。保水性中，透水性やや良好で過湿，過干のおそれは少い。

保肥力中，磷酸固定力小で土層の塩基状態は良好である。作土は置換性苦土少く，下層は磷酸が少く加里，苦土は中庸である。地形は傾斜を呈し侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

一部 畑地に利用されて牧草，飼料作物，馬鈴薯，麦類等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培，緑作帯設置，牧草栽培等による水蝕防止，有機物を施用して深耕して行くことが必要であ

る。また加里，苦土を増施することが望ましい。

D 分 布 北見市開成の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

常 川 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量5~6%，土性はLが主である。色は10YRで彩度2，明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。

ち密度10~15で疎，pH(H₂O) 6.0~6.5。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~20cmで腐植含量2%以下，土性はsL~Lである。風化小中半角礫を含む，色は10YRで彩度4，明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度で，細小孔に富む。ち密度15前後で疎，pH(H₂O) 6.0~6.5前後。

第3層は厚さ20~30cmで腐植を欠き，土性はsL~Lである。風化，腐朽小中大半角礫を含む，色は10YRで彩度4，明度5のものが多い。塊状構造で発達程度は弱度で，細小孔に富む。ち密度15前後で疎，pH(H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下おおむね60cm以下で，風化，腐朽小中大角，角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 北見市常川 試坑No北12

第1層	0~20cm	腐植に富む黒褐(10YR2/2)のL，発達弱度の粒状構造，ち密度10で疎，pH(H ₂ O) 6.4，調査時の湿り半乾，境界平坦明瞭(火山灰を含む)
第2層	20~35cm	腐植あり褐色(10YR4/4)のsL，風化小中半角礫を含む，発達弱度の細塊状構造，細小孔に富む，ち密度15で疎，pH(H ₂ O) 6.5，調査時の湿り半乾，境界波状漸変。
第3層	35~60cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/4)のsL，風化小中半角礫を含む，発達弱度の塊状構造，細小孔に富む，ち密度15で疎，pH(H ₂ O) 6.1，調査時の湿り半乾，境界波状漸変。
第4層	60~	風化小中大角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	1.6	11.3	53.0	26.0	9.7	L	82.2	2.87	3.24	0.27	12	5.6
2	20~35	2.4	22.9	45.0	26.5	5.6	sL	106.9	2.89	0.69	0.09	8	1.2
3	35~60	2.6	22.4	47.5	23.9	6.2	sL	111.7	2.89	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.4	5.6	0.3	26.9	21.8	1.5	0.8	81.0	755	20.7
2	6.5	5.5	0.3	29.2	20.2	4.1	1.6	69.2	1,080	tr
3	6.1	5.2	0.5	32.5	21.3	4.1	1.9	65.5	1,280	13.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては北湯統、川向中央統があるが、何れも堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩（三紀層砂岩）

A-4 堆積様式 残積

B 地形 標高120~220mの波状性傾斜地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

一部は耕地に利用されて牧草、飼料作物、馬鈴薯、麦類等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培、緑作帯の設置等の水蝕防止対策が必要である。また有機物を施用しながら漸次深耕することが望ましい。

F 分布 北見市字常川の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
常川南 - 常川南	III s I t d e

② 土壌区別説明

常川南 - 常川南

は10YR で彩度6、明度5～6。細塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度20前後で中、pH (H₂O) 5.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第5層は地表おおむね70cm以下で、半風化小中大半角、角礫からなる礫層(礫は上層まで脆い灰黄橙色の凝灰質砂岩)

代表的断面形態

所在地 北見市宇柏木 試坑46仁110

第1層	0～17cm	腐植を含む黒褐(10YR2/2)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度19で中、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第1層	17～30cm	腐植あり灰黄褐(10YR5/4)のL、発達弱度の塊状構造、細小孔を含むち密度19で疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	30～50cm	腐植を欠く明黄褐(10YR7/6)CL、風化小中大半角礫を含む、発達弱度の塊状構造、細小孔を含む、ち密度22で中、pH(H ₂ O)4.9、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第4層	50～70cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR7/6)のScL、半風化小中大半角礫に頗る富む、発達弱度の細塊状構造、ち密度22で中、pH(H ₂ O)4.7、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第5層	70～	半風化小中大半角、角礫からなる礫層(礫は灰黄橙色の脆い凝灰質砂岩)

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～17	2.4	5.1	48.4	29.8	16.7	cL	111.4	2.79	2.74	0.24	11	4.7
2	17～30	0.9	5.8	42.9	44.7	6.6	L	120.0	3.01	0.74	0.10	7	1.3
3	30～50	3.8	5.0	49.0	26.4	19.6	cL	130.9	2.85	—	—	—	—
4	50～70	5.1	11.4	45.3	18.6	24.7	ScL	117.9	2.68	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.6	1.3	23.1	13.2	1.2	0.4	57.1	725	16.4
2	5.5	4.3	4.5	18.2	10.6	2.0	0.2	58.2	666	6.9
3	4.9	4.0	24.5	29.1	14.6	2.9	0.2	50.2	1040	tr
4	4.7	3.9	28.3	39.4	21.9	5.8	0.4	55.6	756	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては柏木南統、本沢西統、仁頃南統、若松東統等があるが、本沢西統、仁頃南統、若松東統とは堆積様式が異り、また本沢西統とは母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 弱固結水成岩(三紀層凝灰質砂岩)

A-4 堆積様式 残 積

B 地 形 標高140～250mの波状性傾斜地

C 気 候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作をうける。年平均気温 5.6℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

畑地には牧草その他の飼料作物、馬鈴薯、ビート、麦類等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培、緑作帯の設置、牧草栽培等の水蝕防止対策が必要である。また有機物を施用しながら深耕することも必要であろう。

F 分 布 北見市柏木の大部分

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
柏 木 - 柏 木	Ⅲ s Ⅱ t d e

② 土壤区別説明

柏 木 - 柏 木

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	表	表	透	保	湿	自	養	置	有	微	酸	障	災	傾	侵	耐	
壤	効	土	土	地	然	層	分	換	効	害	理	冠	物	增	地	自	傾	耐
生	土	耘	土	の		の	性	態	量	物	的	水	的	害	傾	人	侵	
産	土	土	の			乾	の	性	量	害	的	水	的	害	傾	人	侵	
力	の	の	風			水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	
可	層	の	乾			水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	
能	の	粘	土			沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	
性	厚	難	着			沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	
等	深	含	硬			沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	
級	さ	量	易			沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	
Ⅲ	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e							
Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	
簡略分級式	Ⅲ s Ⅱ t d e																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は柏木統に属する。作土の厚さは 15～20cm で中庸、有効土層も 70cm 内外で中庸である。作土の土性は中粒質で粘着性中庸で耕起砕土は容易である。保水性中庸透水性大で過湿、過干のおそれは少ない。

保肥力大、燐酸固定力中で土層の塩基状態はやや良好である。作土の養分含量はおおむね存在するが下層は燐酸、加里が小さく酸性を呈する。

地形は傾斜地が多く侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

畑地には牧草その他の飼料作物、馬鈴薯、麦類等が栽培されている。その他は山林原野になっている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯の設置、牧草栽培等水蝕防止対策が必要であり、また有機物を施用して深耕する必要がある。

分 布 北見市字柏木の大部分

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

本 沢 西 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量2～3%，土性はL～SLである。色は10YRで彩度2，明度4のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。

ち密度15～18で疎，pH(H₂O) 5.5～6.0，下層との境界は平坦明瞭。

第2層は厚さ20cmで腐植含量2%以下，土性はSLが主である。色は10YRで彩度4，明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度で，細小孔に富む。ち密度20前後で中，pH(H₂O) 5.0～5.5。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20～30cmで腐植を欠き，土性はSLが主である。色は10YRで彩度6，明度6～7，塊状構造で発達程度は中度である。ち密度20前後で中，pH(H₂O) 5.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は厚さ20～30cmで腐植を欠き，土性はSが主である。色は10YRで彩度6，明度6～7単粒構造，ち密度15～18で疎，下層との境界は波状漸変である。

第5層は地表下80～90cmで腐植を欠き，土性はSが主である。色は10YRで彩度6，明度6～7。単粒構造，ち密度28前後で中，pH(H₂O) 5.0～5.5。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 北見市字本沢 試坑No仁A6

第1層	0～16cm	腐植を含む黄褐灰(10YR4/2)のL，発達弱度の粒状構造，ち密度17で疎，pH(H ₂ O) 5.7，調査時の湿り半乾，境界平坦明瞭。
第2層	16～35cm	腐植あり灰黄褐(10YR5/4)のSL，発達弱度の細塊状構造，細小孔に富む。ち密度21で中，pH(H ₂ O) 5.3，調査時の湿り半乾，境界漸変。
第3層	35～60cm	腐植を欠く明黄褐(10YR7/6)のSL，発達中度の塊状構造，ち密度21で中，pH(H ₂ O) 4.9，調査時の湿り半乾，境界波状漸変。
第4層	60～85cm	腐植を欠く明黄褐(10YR7/6)のSL，単粒構造，ち密度17で疎，調査時の湿り半乾，境界波状漸変。
第5層	85～	腐植を欠く明黄褐(10YR7/6)のS，単粒構造，ち密度28で密，pH(H ₂ O) 5.4，調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	1.8	12.1	52.0	23.1	12.8	L	115.6	2.94	1.47	0.14	10	2.5
2	16~35	2.2	26.2	43.7	20.8	9.3	SL	124.9	2.80	0.31	0.04	8	0.5
3	35~60	2.6	5.5	65.2	16.4	12.9	SL	120.7	2.88	—	—	—	—
4	60~85	2.6	17.8	63.1	8.4	10.7	SL	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置 要 性 塩 基 me/100g			石灰飽 和度 %	燐酸吸 収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.1	1.0	22.1	12.4	0.5	0.1	5.61	67.2	2.61
2	5.3	4.4	6.0	22.2	11.2	0.6	0.6	5.05	71.3	2.5
3	4.9	4.2	7.8	27.2	12.6	1.3	0.8	4.63	91.6	1.2
4	5.4	4.4	3.0	28.2	15.4	1.0	0.2	5.46	91.6	1.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統として柏木統, 若松東統, 本沢統等があるが, 若松東統, 本沢統とは堆積様式が異り, 柏木統とは母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩 (砂層)

A-4 堆積様式 残 積

B 地 形 標高140~200mの波状性傾斜~緩傾斜地

C 気 候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まれて冷害をうける。年平均気温 5.6°C, 年間降水量 800mm前後。

D 植生及び利用状況

畑地には牧草その他の飼料作物, 馬鈴薯, ビート, 麦類等が栽培されている。他は山林原野になつて

E 農業上の留意事項

等高線栽培, 緑作帯の設置等の水蝕防止対策を要する。有機物を施用して漸次深耕すること。加里, 苦土を増施することが必要である。

F 分 布 北見市宇本沢の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
本 沢 西 一 本 沢 西	ll t n s e

⑥ 土壤区別説明

本 沢 西 - 本 沢 西

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(土	(自	(養	(障	(災	(傾	(侵	(耐	(
壤	効	土	表	表		透	保	湿	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵						
生	土	転	土	土		然			層	分	換	効			害	理	冠	す	斜	然	為	水						
産	土	土	の	地					の	性	態	量			物	的	害	の	の	傾	傾	蝕						
力	の	の	風												害	質	害	の	の			蝕						
可	の	層	の	乾	の	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	障	危	傾	傾		蝕						
能	の	礫	粘	土					基	灰	土	里	酸	要	の	障	危	傾	傾			蝕						
性	深	難	土	着	乾			沃	状	豊	含	効			有	害	障	危	傾	傾		蝕						
等	深	含	性	性	性	度	力	態	量		否			素	度	無	性	度	斜	斜	度	性						
級	さ	量	易	性	性	度	力	態	量		否			素	度	無	性	度	斜	斜	度	性						
	t	d	g	p		w		f		n				i	a	s		e										
	II	II	II	II	1	1	1	I	1	1	1	II	1	2	3	1	1	2	I	1	1	II	2	—	II	2	2	1
簡略分級式	II t n s e																											

A 土壤区の特徴

この土壤区は本沢西統に属する。作土の厚さは16～18cmで中庸、有効土層は90cm内外で中庸である。作土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起砕土は容易である。保水性小、透水性やや大で過湿、過干のおそれは少い。

肥力大、磷酸固定力小で土層の益基状態はやや良好である。作土は置換加里、苦土が少く、下層は磷酸、苦土が少く酸性を呈する。地形は緩傾斜を呈し侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない

B 植生及び利用状況

畑地には牧草その他の飼料作物、馬鈴薯、ビート麦類等が栽培され、その他は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯の設置等の水蝕防止対策が必要で、また有機物を施用して深耕すること、加里、苦土を増施することが必要である。

D 分 布 北見市字本沢の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和43年3月31日

開 拓 統

(1) 土壤統の換要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量10～12%、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10～15で疎、pH(H₂O)4.5～5.0。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量5～6%、土性はSLが主である。色は10YRで彩度4、明度

3のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む、ち密度15~17で疎、pH (H₂O) 5.0~5.5。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20~25cmで腐植含量2~3%、土性はSLが主である。色は7.5 YRで彩度8、明度5のものが多い。塊状構造で発達程度は弱度で細小孔に頗る富む、ち密度15~17で疎、pH (H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は厚さ30cm内外で腐植を欠き、土性はSが主である。色は7.5YRで彩度4、明度8のものが多く、単粒構造で細小孔に富む、ち密度15前後で疎、下層との境界は漸変である。

第5層は地表下おおむね90cm以下で腐植を欠き、土性はSが主である。

単粒構造、ち密度15前後で疎である。

代表的断面形態

所在地 常呂郡端野町 試坑No端11

第1層	0~20cm	腐植に頗る富む黒色(10YR2/1)のCL, 発達弱度の粒状構造, ち密度10で疎, PH (H ₂ O) 4.7, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	20~35cm	腐植に富む暗褐(10YR3/4)のSL, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔に富む, ち密度15で疎, PH (H ₂ O) 5.3, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第3層	35~60cm	腐植を含む明褐(7.5YR5/8)のSL, 発達弱度の塊状構造, 細小孔に富む, ち密度17で疎, pH (H ₂ O) 5.9, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第4層	60~90cm	腐植を欠く淡橙(7.5YR8/4)のS, 単粒構造, 細小孔に頗る富む, ち密度15で疎, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第5層	90~	腐植を欠く明橙褐(7.5YR6/4)のS, 単粒構造, ち密度15で疎, 調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒徑組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	4.9	9.1	33.1	34.6	23.2	cL	6.44	0.38	17	11.1
2	20~35	6.8	13.4	53.6	23.2	4.8	sL	3.65	0.27	14	6.3
3	35~60	5.2	29.2	51.8	16.6	2.4	sL	1.39	0.10	14	2.4

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有機態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.7	4.3	5.0	28.4	10.2	1.7	0.7	35.9	8.48	11.6
2	5.3	4.3	5.7	21.3	3.7	0.6	0.6	17.3	1.618	0.8
3	5.9	5.1	0.7	10.3	1.7	0.7	0.3	16.5	1.271	0.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては仁頃統, 仁頃河岸統, 大和等, 仁頃清統, 端野中央西統等があるが, 各土壌等とも本統とは堆積様色が異なるので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩 (軽石流風化物)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 台地上の緩傾斜~傾斜地

C 気候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害をうける。年平均気温 5.6℃, 年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され, 馬鈴薯, 麦類, 牧草その他の飼料作物が栽培されている。一部は山林原野になっている。

E 農業上の留意事項

緩傾斜~傾斜を呈し, 土壌は耐侵蝕性に乏しいから水蝕防止対策が必要である。斜面上部では侵蝕によつて地力が減耗しているから有機物の重点的投入, 施肥量増加等が必要である。

地形によつて腐植含量や地力に差があるから有機物の施用を図つて地力の増進に努めることが肝要である。

F 分布 北見市宇仁頃その他の一部に散発的に分布。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
開 拓 - 開 拓	III e II t f n s

② 土壌区別説明

開 拓 - 開 拓

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	(土)	透保湿	自	養	障	災	傾	侵	耐
壤 効	表表表	然	層分換	置	有微酸	物	増地	自傾入	侵耐
生 土	土 土	の	の 性	態量	害理	冠す	斜	為	水風
産 土	土 土	の 風	の 性	態量	物的	水べり	然 斜	為	水風
力 の	の 乾	の 水	潤肥定塩	石苦加磷	害質	害の	の 傾	傾	蝕
可の層	の 粘	土 土	基 灰土里酸要	状豊含	の 障	危危	傾方	蝕蝕	
能 の	礫	土 土	沃 状豊含	状豊含	の 障	危危	傾方	蝕蝕	
性深	難土着乾	沃 状豊含	沃 状豊含	状豊含	の 障	危危	傾方	蝕蝕	
等 深含	性性さ	性性度	力力態	量	素度	無性	度度	斜向斜	度性性
級さ	量易	湿	度	否	性	性	斜	蝕	
III	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
III	II I I I 2 1 1	I 1 2 1	II 1 1 3	II 1 1 1 2 2 2	I 1 1	I 1 1	II 2	-- III 2 3 3	
簡略分級式	III e II t f n s								

A 土壤統の概説

この土壤区は開拓統に属する。作土の厚さは15～20cmで中庸，有効土層は1m以上で深い。表土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。保水性中庸で透水性良好なため過湿，過干のおそれは少ないが，土壤軽しよなため春季乾燥強風期には表土が飛散する場合がある。

保肥力大，磷酸固定力中で土層の塩基状態は不良で自然肥沃度は低い。作土の養分含量は比較的存在するが，下層は瘠薄である。特殊の障害性は存在しない。地形は緩傾斜～傾斜を有し，土壤の耐侵蝕性が乏しいので侵蝕のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯，麦類，牧草その他の飼料作物が栽培され，その他は山林原野になっている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培，緑作帯の設置或は牧草栽培等の水蝕防止対策が必要である。

侵蝕の激しい斜面上部は有機物を重点的に投入し，一般に有機物を施用して漸次深耕することが必要である。

D 分 布 北見市字仁頃その他の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

広 郷 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量6～7%，土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度2，明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.5～1.8で疎，pH(H₂O) 6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10～15cmで腐植含量2%以下，土性はLが主である。色は7.5YRで彩度7，明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度で細小孔に富む。ち密度1.5～1.8で疎，pH(H₂O) 6.0～6.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cmで腐植を欠き，土性はLが主である。色は7.5YRで彩度6，明度5のものが多い。塊状構造で発達程度は中度で細小孔を含む。ち密度2.0前後で中，pH(H₂O) 6.5前後。下層との境界は平坦明瞭。

第4層は地表下おおむね50cm以下で腐植を欠き，土性はSが主である。色は10YRで彩度3，明度8のものが多い。単粒構造，ち密度2.0前後で中。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 北見市広郷 試坑北10C

第1層	0～18cm	腐植に富む黒褐(7.5YR2/2)のCL，発達弱度の粒状構造，ち密度1.7で疎，pH(H ₂ O) 6.2，調査時の湿り半乾，境界平坦明瞭。
第2層	18～30cm	腐植あり明褐(7.5YR5/7)のL，発達弱度の細塊状構造，細小孔に富む，ち密度1.7で塊，pH(H ₂ O) 6.5，調査時の湿り半乾，境界波状漸変。

第3層	30~50 cm	腐植を欠く明褐(7.5 YR 5/6)のL, 発達中度の塊状構造, 細小孔を含む, ち密度2.1で中, pH(H ₂ O) 6.6, 調査時の湿り半乾, 境界坦明瞭。
第4層	50~	腐植を欠く淡黄橙(10 YR 8/3)のS, 単粒構造, ち密度2.0で中, 調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~18	3.6	12.0	41.8	30.9	15.3	c L	3.84	0.31	12	6.6
2	18~30	1.7	16.4	41.7	35.3	6.6	L	0.86	0.11	8	1.5
3	30~50	0.4	23.0	36.8	29.7	10.5	L	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和 %	磷酸吸 収係数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.2	0.5	26.3	15.3	0.5	0.5	58.2	1,310	12.0
2	6.5	5.4	0.5	15.7	7.9	0.4	0.4	50.3	1,180	tr
3	6.6	5.3	0.1	13.7	7.5	0.6	0.5	54.7	660	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては若松東統, 広郷東統, 上常呂統, 大和等統があるが, 若松東統とは土性及び下層に出現する盤層の有無により, 広郷東統とは下層の堅密度, 乾湿が異り, 上常呂統, 大和統とは堆積様式が異なるので夫々本統と異なる。

A-3 母 材 非固結火成岩(軽石流風化物)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形 緩波状を呈する標高100m内外の台地

C 気 候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏期低温に見まわられて冷害凶作をうける。年平均気温5.6℃, 年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され, 馬鈴薯, ビート, 麦類, 牧草その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用して深耕することが必要である。緩傾斜地では水蝕が発生するから防止対策が必要である。

F 分 布 北見市宇広郷の大部分

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
広 郷 - 広 郷	ll t s e

② 土壤区別説明

広 郷 一 広 郷

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	透	保	湿	固	土	置	有	微	障	有	物	災	増	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐	
壤	効	土	表	表	土	然	透	保	湿	固	土	置	有	微	障	有	物	災	増	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐	
生	土	土	土	土	地	然	透	保	湿	固	土	置	有	微	障	有	物	災	増	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐	
産	土	土	土	土	地	然	透	保	湿	固	土	置	有	微	障	有	物	災	増	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐	
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
性	厚	粘	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
等	深	難	着	硬	乾	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃
級	さ	量	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																	
	II	II	II	II	2	1	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
簡略分級式	II t s e																											

A 土壤区の特徴

この土壤区は広郷統に属する。作土の厚さは15～18cmで中庸，有効土層は1m以上で深い。作土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。保水性中庸，透水性良好で過湿，過干のおそれは少ない。

施肥力大，磷酸固定力中で土層の塩基状態は良効である。作土は置換性苦土がやや少く、下層は磷酸苦土が少い。

地形は緩傾斜を侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯，ビート，豆類，牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用しながら漸次深耕することが必要である。緩傾斜地では水蝕防止対策が必要である。施肥面では加里，苦土を増肥することが望ましい。

D 分布 北見市字広郷の大部分

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

若 松 東 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm内外で腐植含量6～7%，土性はLが主である。色は7.5YRで彩度1，明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。

ち密度1.0～1.5で疎，pH(H₂O) 6.0～6.5。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2~3%, 土性はCLが主である。色は7.5 YRで彩度4, 明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度は中度で細小孔に富む。ち密度15前後で中, pH (H₂O) 5.5~6.0。下層との境界は波状明瞭である。

第3層は厚さ10~15cmで腐植を欠き, 土性はSLが主である。色は7.5 YRで彩度6, 明度5のものが多い。細塊状構造と板状構造を呈し細小孔を含む。ち密度18前後で疎, pH (H₂O) 5.5~6.0。下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は地表下おおむね60cm以下で腐植を欠き, 土性はSLが主である。色は7.5 YRで彩度6, 明度5のものが多い。均質連結状を呈し, ち密度30前後で甚密, pH (H₂O) 6.0前後。雲状の酸化沈積物を含み, 亀裂面は灰色脈状を呈する。

代表的断面形態

所在地 北見市字川東 試坑No 北28C

第1層	0~27cm	腐植に富む黒褐 (7.5 YR3/1) のL, 発達弱度の粒状構造, ち密度13で疎, pH (H ₂ O) 6.4, 調査時の湿り半乾, 境界平準明瞭。
第2層	27~45cm	腐植を含む褐色 (7.5 YR4/4) のcL, 発達中度の細塊状構造, 細小孔に富む。ち密度15で疎, pH (H ₂ O) 5.7調査時の湿り半乾, 境界波状明瞭。
第3層	45~57cm	腐植を欠く明褐 (7.5 YR5/6) のsL, 発達弱度の細塊状構造と板状構造, 細小孔を含む。ち密度18で疎, pH (H ₂ O) 5.8, 調査時の湿り湿, 境界平坦明瞭。
第4層	57~	腐植を欠く明褐 (7.5 YR5/6) のsL, 均質連結状, ち密度31で甚密, 雲状の酸化沈積物を含み, 亀裂面は灰色脈状を呈す, 調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘度							
1	0~27	1.2	14.8	41.9	28.4	14.9	L	74.0	2.93	3.81	0.33	11	6.6
2	27~45	1.7	15.2	37.2	29.4	18.2	CL	73.2	2.97	1.26	0.14	9	2.2
3	45~57	0.3	21.8	43.7	28.6	5.9	SL	71.0	3.04	—	—	—	—
4	57~	0.4	26.6	39.5	23.1	10.8	SL	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.4	5.7	0.3	25.4	22.5	0.3	0.5	88.6	714	11.8
2	5.7	4.9	0.8	17.0	9.9	0.3	0.5	58.2	816	tr
3	5.8	4.6	1.5	12.1	5.5	0.3	0.4	45.5	440	tr
4	6.1	4.7	1.0	13.4	7.2	1.1	0.4	53.7	460	3.2

る。作土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起砕土は容易である。保水性中庸で透水性やや良好で過湿、過干のおそれは少いがところにより過湿のおそれがある。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態はやや良好である。作土は置換性苦土が少く、下層は磷酸苦土が少い。地形は緩傾斜を呈するところは水蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯、ビート、麦類、牧草その他が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

水蝕防止のため等高線栽培を要し、斜面上部の斜蝕を強く受けるところは有機物を投入し施肥量を増す必要がある。加里、苦土を増施することが一般的に望ましい。また部分的にやや排水不良を呈するところは軽度の暗渠排水を要する。

D 分布 北見市字川東その他の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

福 野 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20~25cmで腐植含量7%内外、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度1、明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。

ち密度10~15で疎。pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~15cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度6、明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度は中度で、細小孔を含む。ち密度19前後で中、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度8、明度4~5。塊状構造で発達程度は弱~中度である。ち密度20前後で中、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は厚さ10cm内外で腐植を欠き、土性はsが主である。単粒構造、ち密度20前後で中、下層との境界は波状明瞭である。

第5層は地表下おおむね70cm以下で腐植を欠き、土性はCが主である。色は7.5YRで彩度6、明度5のものが多い。均質連結状を呈し、ち密度25~27で密。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 北見市字福野 試坑No.

第1層	0~23cm	腐植に富む黒色(7.5YR2/1)のCL, 発達弱度の粒状構造, ち密度14で疎, pH(H ₂ O)5.9, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	23~38cm	腐植あり褐色(7.5YR4/6)のCL, 発達中度の細塊状構造, 細小孔を含む。ち密度19で中, pH(H ₂ O)5.4, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第3層	38~60cm	腐植を欠く明褐色(7.5YR5/8)のCL, 発達中度の塊状構造, 細小孔を含む。ち密度22で中, pH(H ₂ O)5.5, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。

第4層	60~68cm	腐植を欠く明褐 (7.5 YR 5/7) のS, 単粒構造, ち密度2.0で中, 調査の湿り半乾, 境界波状明瞭。
第5層	68~	腐植を欠く明褐 (7.5 YR 5/6) のC, 均質連結状, ち密度2.7で密, 調査時の湿り湿。

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~23	1.5	9.7	40.6	33.5	16.2	CL	4.24	0.33	1.3	7.3
2	23~38	1.2	11.4	37.8	31.6	18.8	CL	1.01	0.11	9	1.8
3	38~60	1.9	10.0	37.5	32.1	20.4	CL	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽 和 度 %	磷酸吸 収 係 数	有効態 磷 酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	5.0	0.8	25.2	14.8	0.6	0.4	58.7	81.6	13.3
2	5.4	4.7	2.0	16.2	8.1	0.1	0.3	50.0	86.8	2.4
3	5.5	4.7	1.8	15.7	6.8	1.5	0.8	43.3	95.9	2.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては端野東統, 上常呂統等があるが, 何れも堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩 (凝灰質)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形 標高180~220mの緩波状を呈する台地。

C 気 候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃, 年間降水量 800前後。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されてビート, 馬鈴薯, 麦類, 牧草その他が栽培されている。他の一部は山林原野になっている。

E 農業上の留意事項

傾斜を有するところは侵蝕のおそれがあるから等高線栽培等により水蝕を防止すること, 有機物の施用を図つて地力の増進に努めることが必換である。

F 分 布 北見字福野の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
福 野 - 福 野	I t n s e

② 土壤区別説明

福 野 一 福 野

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	表	耕	(土	(自	(養	(障	(災	(傾	(侵	(耐
壤	効	土	土	表	透	保	湿	然	層	分	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風
生	土	土	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
産	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
性	厚	難	土	着	乾	沃	状	否	含	素	度	無	性	度	度	斜	斜	度	性
等	深	含	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	量	易	湿	度	度	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否
	t	d	g	p	w	f	n					i	a	s	e				
	II	I	I	I	2	1	1	I	2	2	1	I	1	2	1	1	1	I	1
	II	I	I	I	2	2	1	I	1	2	1	I	1	1	1	1	1	I	1
簡略分級式	II t n s e																		

A 土壤統区の特徴

この土壤区は福野統に属する。作土の厚さは20～25cmで中庸，有効土層は1m内外で深い。作土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。保水性中庸，透水性もやや中庸で過湿，過干のおそれは少ない。

保肥力大，燐酸固定力中庸で上層の塩基状態はやや良好である。作土は置換性苦土やや少く，下層は燐酸，苦土が少い。地形は緩形斜を呈し侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯，ビート，麦類，その他が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培等により水蝕を防止し，有機物の施用を図つて地力の増進に努めることが必要である。また加里，苦土を増施することが望ましい。

D 分布 北見市字福野に分布

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和43年3月31日

広 郷 東 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は20～25cmで腐植含量は9～10%，土性はcLが主である。色は10-YRで彩度1，明度1のものが多し。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.8で疎，pH(H₂O) 5.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量2%以下、土性はLが主である。色は10YRで彩度1、明度5のものが多い。角柱状構造を呈し細小孔を含む。ち密度20前後で中、pH(H₂O) 5.0~5.5、下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ10cm内外で腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は5Yで彩度1、明度8のものが多い。均質連結状で細小孔あり、ち密度25~28で密、pH(H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下おおむね50cm以下で腐植を欠き、土性はCLが主である。色は5Yで彩度1、明度8、均質連結状、ち密度30前後で甚だ密。

代表的断面形態

所在地 常呂郡訓子府町 試坑No 北11

第1層	0~25cm	腐植に富む黒色(10YR1/1)のCL, 発達弱度の粒状構造, ち密度18で疎。pH(H ₂ O) 5.1, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	25~40cm	腐植あり黄褐灰(10YR5/1)のL, 均質連結状, 細小孔を含む。ち密度20で中, pH(H ₂ O) 5.3。調査時の湿り半乾~湿, 境界波状漸変。
第3層	40~50cm	腐植を欠く淡黄灰(5Y8/1)のL, 均質連結状, 細小孔あり, ち密度27で密, 雲状の酸化沈積物を含む。調査時の湿り湿。
第4層	50~	腐植を欠く淡黄灰(5Y8/1)のLiC, 均質連結状, ち密度30で甚密, 調査時の湿り半乾

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~25		5.7	37.8	36.4	20.1	CL	5.47	0.48	11	9.4
2	25~40		19.3	24.6	44.2	11.9	L	0.55	0.09	6	1.0
3	40~		12.3	32.1	29.8	25.8	LiC	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.1	4.5	3.8	32.7	13.6	1.4	0.1	41.6	1.340	14.0
2	5.3	4.3	2.0	12.1	7.3	0.5	0.03	60.3	7.00	1.6
3	6.3	4.7	1.3	12.7	8.6	1.3	0.05	67.7	6.40	tr

A-2 他の土壌との関係

本統に隣接または類似する統としては広郷統, 上常呂統があるが, 広郷統とは乾湿が異り, 上常呂統は水田土壌なので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 標高160~200mの緩波状を呈する台地。

層は磷酸，加里，苦土が少い。地形は緩傾斜を呈するところは水蝕発生のおそれがある。堅密な不透水層が浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され，馬鈴薯，ビート，麦類，牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

暗渠排水と心土破砕を併行して実施すること，有機物を施用して漸次深耕すること，磷酸，加里を増施することが必要である。緩傾斜地で水蝕の発生するところは等高線栽培その他の水蝕防止対策を構ずる要がある。

D 分 布 北見市

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

美 里 北 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量2～3%，土性はLiCが主である。色は10YRで採度3，明度3のものが主である。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15～18で疎，pH(H₂O) 5.5～6.0。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さは10cm内外で腐植含量2%以下，土性はLiCが主である。色は10YRで採度6，明度6～7，角柱状構造，雲状の酸化沈積物に富む。ち密度20前後で中，pH(H₂O) 5.5～6.0。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さは15cm内外で腐植を欠き，土性はHCである。色は7.5YRで彩度6，明度5のものが主である。均質連結状を呈し，灰色脈を有し，ち密度25～28で密，pH(H₂O) 5.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下おおむね40cm以下で腐植を欠き，土性はCが主である。色は7.5YRで彩度6，明度5のものが多。均質連結状を呈し，灰色脈を有す。ち密度28～30で密～甚密。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 北見市字仁頃 試坑No 仁8

第1層	0～15cm	腐植を含む暗褐(10YR3/3)のLiC，発達弱度の粒状構造，ち密度15で疎，pH(H ₂ O) 5.8，調査時の湿り半乾，境界平坦明瞭。
第2層	15～25cm	腐植を欠く明黄褐(10YR7/6)のLiC，角柱状構造，雲状の酸化沈積物に富み，灰色斑あり，ち密度20で中，pH(H ₂ O) 5.7，調査時の湿り湿，下層との境界は波状漸変。
第3層	25～40cm	腐植を欠く明褐(7.5YR5/6)のLiC，均質連結状構造，灰色脈を有し，ち密度26で密，調査時の湿り湿，下層との境界は波状漸変。
第4層	40～	腐植を欠く明褐(7.5YR5/6)のC，均質連結状構造，灰色脈を有する。ち密度28で密，調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0 ~ 15	0.2	12.7	33.9	16.7	36.7	LiC	1.58	0.18	9	2.4
2	15 ~ 25	1.6	14.0	27.5	31.2	27.3	LiC	—	—	—	—
3	25 ~ 40	2.3	9.6	23.2	17.4	49.8	HL	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.8	0.8	15.7	9.5	0.1	0.3	60.5	640	21.6
2	5.7	4.7	0.8	18.4	17.4	2.5	0.8	94.6	571	2.8
3	5.0	4.0	4.8	18.0	8.1	1.7	0.4	45.0	612	1.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては仁頃河岸統，北陽統，開拓統，北陽南等があるが何れも堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩（シルト岩風化堆積物）

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形 標高140~200mの波状性台地。

C 気 候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作をうける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm前後。

D 植生及び利用状況

山林原野と畑地が半々で，畑地には馬鈴薯，ビート，牧草，麦類等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

暗渠排水並びに心土破碎を実施し，有機物を充分施用して深耕することが必要である。また等高線栽培緑作帯の設置等水蝕防止が必要でもある。

F 分 布 北見市字仁頃の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
美里北一美里北	dwse tpni

② 土壌区別説明

第2層は厚さ10cm~15cmで腐植含量2%以下、土性はLが主である。色は10YRで彩度3、明度5のものが多。細塊状構造で発達程度は弱度で、細小孔に頗る富む。ち密度15~18で疎、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ10cm内外で腐植を欠き、土性はCLが主である。色は10YRで彩度3、明度6のものが多。板状構造を呈し、細小孔に富む。ち密度20~24で中、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は地表下40~50cm以下で腐植を欠き、土性はCLが主である。角柱状を呈し、ち密度25前後で密、pH(H₂O)5.0前後、雲状酸化沈積物あり。

代表的断面形態

所在地 北見市字柏木 試坑No 仁27

第1層	0~23cm	腐植を含む黒褐(10YR2/3)のCL, 発達弱度の粒状構造, ち密度13で疎, pH(H ₂ O)6.0, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	23~35cm	腐植あり灰黄褐(10YR5/3)のL, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔に頗る富む。ち密度18で疎, pH(H ₂ O)5.9, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第3層	35~45cm	腐植を欠く灰黄橙(10YR6/3)のCL, 板状構造, 細小孔を含む, ち密度24で密, pH(H ₂ O)5.9, 調査時の湿り湿, 境界平坦明瞭。
第4層	45~	腐植を欠く灰黄褐(10YR7/3)のCL, 角柱状構造, ち密度25で密, 雲状の酸化沈積物を含む。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~23	0.9	7.7	47.3	28.6	16.4	CL	2.56	0.21	12	4.4
2	23~35	0.6	8.6	47.8	30.0	13.6	L	0.49	0.07	7	0.8
3	35~45	0.6	7.5	47.7	27.1	17.7	CL	—	—	—	—
4	45~	2.9	2.0	53.6	22.3	22.1	CL	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.0	0.8	18.5	9.8	0.3	0.1	53.0	525	9.7
2	5.9	4.7	0.8	11.6	6.3	0.4	0.1	54.3	444	tr
3	5.9	4.8	1.3	16.1	6.9	0.6	0.2	42.9	505	tr
4	4.9	4.0	9.0	30.5	8.4	8.1	0.4	27.5	886	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては若松東統, 柏木統, 仁頃南統等があるが何れも堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質砂岩風化堆積物)

保肥力中，磷酸固定力小で土層の塩基状態はやや良好である。作土は置換性加里，苦土が少く，下層は磷酸，加里，苦土が少い。地形は緩傾斜～傾斜を呈し侵蝕のおそれがある。堅密層浅く物理的障害をうける。

B 植生及び利用状況

緩傾斜地は畑に利用されて馬鈴薯，ビート，麦類，牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

心土破碎を実施し，軽度の暗渠排水を行うこと。有機物を施用し，加里，苦土を増施することが必要である。緩傾斜～傾斜地は侵蝕のおそれがあるから等高線栽培，緑作帯の設置等水蝕防止も必要である。

D 分布 北見市字柏木の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

昭 栄 中 央 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18～25cmで腐植含量2～3%，土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1，明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.5～1.8で疎，pH(H₂O) 5.0～5.5。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15～20cmで腐植含量2%以下，土性はCLが主である。色は10YRで彩度3～4，明度5。細塊状構造で発達程度は中度であり，細小孔に富む。ち密度1.5～1.7で疎，pH(H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ30cm内外で腐植を欠き，土性はCLが主である。色は10YRで彩度4，明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む。ち密度2.1前後で中，pH(H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下60～70cm以下で腐植を欠き，未風化細小中円礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡留辺蘂町字昭栄 試坑No. 北42

第1層	0～18cm	腐植を含む黒褐(10YR3/1)のLiC，発達弱度の粒状構造，ち密度1.8で疎，pH(H ₂ O) 5.3，調査時の湿り半乾，境界平坦明瞭。
第2層	18～38cm	腐植あり褐色(10YR5/4)のCL，発達中度の細塊状構造，細小中孔に富む。ち密度1.7で疎，pH(H ₂ O) 5.9，調査時の湿り半乾，境界波状漸変。
第3層	38～65cm	腐植を欠く褐色(10YR5/4)のCL，発達弱度の細塊状構造，細小中孔に富む。ち密度2.1で中，pH(H ₂ O) 6.0。調査時の湿り半湿，境界波状漸変。
第4層	65～	未風化細小中円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	2.9	7.2	32.8	32.3	27.7	Lic	94.3	2.59	1.22	0.14	9	2.2
2	18~38	1.2	1.7	46.5	31.5	20.3	CL	103.2	2.43	0.93	0.13	7	1.6
3	38~65	1.9	3.0	55.9	25.5	15.6	CL	103.9	2.67	—	—	—	—

層位	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.3	4.0	16.8	21.0	10.3	1.7	0.3	48.8	738	tr
2	5.9	4.5	1.0	19.6	14.1	0.5	0.3	71.9	727	tr
3	6.0	4.3	8.8	18.8	12.5	1.0	0.3	66.5	755	2.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては相内中央統，端野東統，端野西統等があるが，相内中央統は水田土壌であり，端野東統とは土性，礫層の出現位置が異りまた端野東統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地 形 無加川流域の低平地

C 気 候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まれて冷害を受ける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分細地に利用され，ビート，豆類，麦類，馬鈴薯，高級菜豆等が栽培されている。一部は水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用しながら漸次深耕して行くことが望ましい。施肥面では磷酸，加里に重点をおくことが必要であろう。

F 分 布 常呂郡留辺藪町無加川の流域に分布

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
昭栄中央一昭栄中央	ll t d f n

② 土壌区別説明

昭栄中央 - 昭栄中央

示性分級式(畑)

土表	有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	耐
壤	表	表	透	保	湿	固	土	置	有
生	効	土	然	層	換	"	"	効	効
産	土	転	土	の	性	態	量	物	的
力	の	の	風					害	質
可	の	の	乾	水	潤	肥	定	塩	の
能	の	粘	土	沃	基	灰	土	里	酸
性	厚	難	土	着	乾	沃	状	豊	含
等	深	含	性	性	度	力	態	量	素
級	さ	量	易	湿	度	否	性	無	性
	t	d	g	p	w	f	n	i	a
	s	e							
II II II I I 3 2 1 I 1 2 1 II 1 2 2 II 1 1 2 3 1 2 I 1 1 I 1 1 I 1 -- I 1 1 1									
簡略分級式 II t d f n									

A 土壤区の特徴

この土壤区は昭栄中央統に属する。作土の厚さは18~20cmで中庸，有効土層も60~70cmで中庸である。作土の土性は細粒質であるが粘着性やや弱く耕起砕土は容易である。保水性中庸，透水性良好で過湿，過干のおそれは少い。

保肥力大，磷酸固定力中庸で土層の塩基状態は中庸である。作土は有効態磷酸少く，置換性加里は中庸，下層は磷酸，苦土が少い。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく，特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて馬鈴薯，麦類，ビート，高級菜豆その他の豆類が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用しながら漸次深耕して行くこと。磷酸，加里を増施することが望ましい。

D 分布 常呂郡留辺蘂町無加川流域に分布。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

大 正 沢 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20~25cmで腐植含量10%以上，土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1，明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10~15で疎，pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量10%以上，土性はHCが主である。色は10YRで彩度3，明度4のものが多い。板状構造と角柱状構造を呈し，細小孔を含む。ち密度10~15で疎，pH(H₂O)

5.0前後、下層との境界は波状明瞭である。

第3層は地表下40～50cm以下で腐植を欠き、土性はS～SLである。色は10YRで彩度2、明度7である。単粒構造または無構造である。ち密度15～18で疎、雲状の酸化沈積物を含む。

代表的断面形態

所在地 北見市字大正沢 試坑No 北66

第1層	0～25cm	腐植に頗る富む黒色(10YR2/1)のLiC, 発達弱度の粒状構造。ち密度13で疎, pH(H ₂ O) 5.6, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	25～45cm	腐植に頗る富む灰黄褐(10YR4/3)のHC, 板状構造と角柱状構造細小孔を含む。ち密度13で疎, pH(H ₂ O) 4.7, 調査時の湿り湿, 境界波状明瞭(一部泥炭質のところあり)。
第3層	45～	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)SL, 無構造, ち密度17で疎, 雲状の酸化沈積物を含む。調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重積g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～25	4.2	5.0	32.6	36.5	25.9	LiC	53.4	2.66	10.60	0.87	1.2	1.77
2	25～45	5.5	0.2	14.6	39.7	45.5	HC	57.0	2.85	9.58	0.68	1.4	1.65

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態 燐酸 mg/100g
	H ₂ O	Kc1			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	5.2	0.5	4.77	3.18	1.2	0.0	66.7	9.24	19.2
2	4.7	3.9	10.0	50.6	19.3	2.8	0.1	38.1	9.95	1.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては若松東統, 端野西統, 上常呂統があるが, 若松東統, 端野西統とは堆積様式が異り, 上常呂統は水田土壌であるため夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 無加川流域の低平地

C 気候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まれて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃, 年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され, 馬鈴薯, 麦類, 豆類, 牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

明渠, 暗渠排水を完備すること。酸性矯正, 加里の増施等が必要である。

F 分布 北見市無加川の流域に分布

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
大正沢一大正沢	III w II t p f n

② 土壤区別説明

大 正 沢 - 大 正 沢

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 土	表 耕	表 表	土	自	養	障	災	傾	侵	耐	耐
生 産 力 能 性 等	効 土 土 土 土	土 土 土 土	土 土 土 土	地	然	層 分 換	" " 効	害 理 冠	す	斜 為	水 風	蝕
厚 深	含 難 土 着 乾 沃	性 性 さ 性 性 度 力 力 態 量	性 性 度 力 力 態 量	否	素 度 無 性 度 度 斜 向 斜 度 性 性	性 性 斜 蝕						
級 さ さ 量 易	t d g p	w	f	n	i	a	s	e				
簡略分級式	III II I I I II 3 2 2 III 2 2 3 II 1 2 2 II 1 2 3 1 2 2 I 1 1 I 1 1 I 1 1 -- I 1 1 1											

A 土壤区の特徴

この土壤区は大正沢統に属する。作土の厚さは20～25cmで中庸、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は細粒質で粘着性強く耕起碎土はやや困難である。保水性、透水性ともに中庸であるが地下水位高いため過湿のおそれが多い。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態はやや中庸である。作土は置換性加里少く、下層は磷酸、加里が少く酸性を呈する。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用され、馬鈴薯、麦類、豆類、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

明渠、暗渠排水を完備すること、やや酸性を呈するから炭カルの施用、加里、若土の増施が必要である。

D 分 布 北見市無加川流域に分布

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

仁 頃 中 央 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量4~5%, 土性はCLが主である。色は7.5 YRで彩度4, 明度3~4。粒状構造で発達程度は中度である。ち密度1.0~1.5で疎, pH (H₂O) 6.0~7.0。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下, 土性はSC~CLである。色は7.5 YRで彩度4, 明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度は中度で, 細小孔に富む。ち密度1.0~1.5で疎, pH (H₂O) 6.0~7.0。下層との境界は波状明瞭である。

第3層は厚さ30~40cmで腐植を欠き, 土性はCLが主である。色は7.5 YRで彩度4, 明度4~5。細塊状構造で発達程度は弱度であり, 細小孔に富む。ち密度1.0~1.5で疎, pH (H₂O) 6.0~6.5。雲状の酸化沈積物を含む。下層との境界は波状漸変である。

第4層は厚さ20~30cmで腐植を欠き, 土性はCLが主である。色は5 YRで彩度3, 明度5~6。細塊状構造で発達程度は弱度であり, 細小孔に富む。ち密度1.0~1.5で疎, pH (H₂O) 6.0~6.5。雲状の酸化沈積物を含む。下層との境界は波状明瞭である。

第5層は地表下100~110cm以下で腐植を欠き, 土性はSが主である。色は5 YRで彩度2, 明度6のものが多い。単粒構造, ち密度1.0~1.5で疎, 弱グライを呈する。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 北見市字仁頃 試坑No 仁22

第1層	0~18cm	腐植を含む褐色(10YR4/4)のCL, 発達中度の粒状構造, ち密度1.2で疎, pH (H ₂ O) 6.7, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	18~40cm	腐植あり褐色(7.5YR4/4)SC, 発達中度の細塊状構造, 細小孔に富む, ち密度1.5で疎, pH (H ₂ O) 6.7, 調査時の湿り半乾, 境界波状明瞭。
第3層	40~75cm	腐植を欠く灰褐(7.5YR5/4)のCL, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔に富む。雲状の酸化沈積物を含む。ち密度1.4で疎, pH (H ₂ O) 6.5。調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第4層	75~110cm	腐植を欠く灰橙(7.5YR6/3)のCL, 発達度の細塊状構造, 細小孔に富む。雲状の酸化沈積物を含む。ち密度1.4で疎, pH (H ₂ O) 6.4, 調査時の湿り湿, 境界波状明瞭。
第5層	110~	腐植を欠く褐灰(5YR6/2)のS, 単粒構造, ち密度1.4で疎, 調査時の湿り湿, 弱グライを呈す。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	2.8	3.6	40.2	32.1	24.1	CL	92.3	2.93	2.63	0.30	9	4.5
2	18~40	2.8	2.2	53.4	59	38.5	SC	105.0	2.83	1.06	0.16	7	1.8
3	40~75	2.2	0.3	54.7	25.0	20.0	CL	96.1	2.74	—	—	—	—
4	75~	2.3	3.0	58.8	22.1	16.1	CL	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.7	6.1	0.3	35.8	30.9	3.6	0.6	86.3	1,030	31.7
2	6.7	5.7	0.3	34.5	25.3	3.9	0.3	73.3	1,360	10.3
3	6.5	5.3	0.2	30.0	18.1	5.6	0.2	60.3	980	7.8
4	6.4	5.0	0.3	27.6	17.3	5.0	0.2	62.7	921	3.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては大和統、仁頃河段統、仁頃河岸統、本沢統等がある。本沢統とは堆積様式同一であるが礫層の有無及び乾湿が異り、他の土壌統とは何れも堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（赤色珪岩その他の風化堆積物）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 仁頃川流域の低平地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まれて冷害凶作をうける。年平均気温 5.6℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、ハッカ、玉ねぎ、麦類等が栽培されている。また一部は水稲が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用し漸次深耕することが望ましい。また一部は軽度の暗渠排水を要する。

F 分布 北見市宇仁頃の仁頃川流域に分布

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
仁頃中央-仁頃中央	II t p w

② 土壌区別説明

仁頃中央 - 仁頃中央

示性分級式 (畑)

土表有表耕	(土	(土	(土	(自	(養	(置	(有微酸	(障	(災	(傾	(侵											
壤	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	障	災	傾	侵	自傾人	侵耐耐											
生土	効土	転土土	地	然	層分換	" "	効	害理	冠す	斜	水風											
産土	土	の風	の性	態	量的		物的	害	の	然為	水風											
力	の	の	の	の	の		害	害	の	の	蝕											
可	の層	の乾	の水	水潤肥	肥定塩	の石	苦加磷	害質	障	害	蝕											
能	の礫	粘土	基	灰土	里酸	要	の	害	危	傾	蝕											
性厚	難土	着の	沃	状豊	含	" "	" "	有	害	傾	蝕											
等	深含	性	性	度	力	態	量		素	性	度											
級	さ	量	易	湿	度	否	量		性	性	性											
	t	d	g	p	w	f	n		i	a	s	e										
	1	1	1	2	2	2	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	簡略分級式			t p w																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は仁頃中央統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は中粒質で粘着性は中庸であるが土壤はやや碎土し難く耕起碎土はやや困難である。保水性、透水性ともに中庸であるが地下水位の影響を受けてやや湿性を呈する場合がある。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態は良好である。作土、心土とも養分はおおむね存在する。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯、ビート、ハツカ、玉ねぎ、麦類等が栽培され、一部は水稻が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用して漸次深耕すること。軽度の暗渠排水が必要である。

D 分布 北見市宇仁頃、仁頃川流域に分布

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

北 陽 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量3~4%, 土性はSLが主である。色は7.5 YRで彩度3, 明度3のものが多く、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.0以下で頗る疎, pH (H₂O) 6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性は6L~Lである。色は7.5 YRで彩度4, 明度4のものが多く、単粒構造、ち密度1.0~1.5で疎, pH (H₂O) 6.0~6.5。下層との境界は波状漸

変である。

第3層は地表下おおむね40cm以下で腐植を欠き、未風化、半風化細小中円礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 北見市字仁頃北陽 試坑No 仁18

第1層	0~15cm	腐植を含む暗褐(7.5YR 3/3)のSL, 発達弱度の粒状構造, ち密度8で頗る疎, pH(H ₂ O) 6.1, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	15~40cm	腐植を欠く灰褐(7.5YR 5/4)のSL, 単粒構造, もしくは発達弱度の塊状構造, ち密度1.3で疎, pH(H ₂ O) 6.3, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第3層	40~	未風化, 半風化細小中円礫からなる礫層。

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~15	2.7	38.0	34.6	12.1	s L	1.84	0.19	0.19	11	3.2
2	15~40	3.0	31.2	46.9	11.0	s L	0.65	0.09	0.09	7	1.1

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	4.6	0.8	34.7	25.7	6.7	0.3	74.1	1.070	24.3
2	6.3	5.0	0.5	36.0	27.8	0.2	0.2	77.2	1.260	4.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては美里北統, 北陽南統, 仁頃河岸統, 本沢統等があるが, 本沢統とは同一堆積様式であるが礫層の有無及び乾湿が異り, 他の土壌統は堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩 (古成層砂岩, 赤色珪岩風化物)

A-4 堆積様式 水積 (河成堆積)

B 地 形 仁頃川支流の低平地。

C 気 候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作をうける。年平均気温5.6℃, 年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され, 馬鈴薯, ビート, ハツカ, 麦類等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用して漸次深耕して行くことが必要である。

F 分 布 北見市字仁頃の小河の流域に分布。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

- (2) 土壤区の細分
- ① 土壤区の一覧

土壤区名	簡略分級式
北陽 - 北陽	ⅡdⅡtfi(w)

② 土壤区別説明

北 陽 - 北 陽

示性分級式(畑)

	土表有表耕	(土)表表表	(透)保湿	(自)保固土	(養)置	(有)微酸	(障)有物	(災)増地	(傾)自傾人	(侵)耐耐										
壤	効	土	土	土	の	地	然	層	分	換	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	
生	土	土	土	土	の	の	の	の	性	態	量	物	的	水	り	然	為	水	風	
産	土	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	害	の	の
力	の	の	粘	土	基	灰	土	里	酸	要	の	障	危	危	傾	傾	蝕	蝕		
可	の	礫	土	着	乾	沃	状	豊	含	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
能	の	難	土	着	乾	沃	状	豊	含	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
性	厚	深	含	性	性	性	性	度	力	力	態	量	素	度	無	性	度	度	斜	向
等	深	含	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量	素	度	無	性	度	度	斜	向
級	さ	量	易	湿	度	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e									
	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
簡略分級式	Ⅱ d Ⅱ t f i (w)																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は北陽統に属する。作土の厚さは15cm内外で中庸，有効土層は40cm内外で浅い。作土の土性は粗粒質で粘着性極く弱く耕起砕土は容易である。保水性小，透水性大で一時的過干のおそれがある。

保肥力大，磷酸固定力中で土層の塩基状態は良好である。作土は置換性加里中庸で，下層は磷酸，加里，苦土が少い。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく，礫層浅く物理的障害をうける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯，ビート，ハツカ，麦類等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用して漸次深耕すること，加里，苦土を増施することが必要と思われる。

D 分布

北見市字仁頃の小河川の流域に分布
 記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
 日付 昭和43年3月31日

本 沢 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量3～4%，土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度4，明度3のものが多い。未風化細小中円礫に富む。粒状構造で発達程度は弱～中度である。ち密度10～15で疎，pH（H₂O）6.0～6.5。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下，土性はCLが主である。未風化細小円礫を含む。色は7.5YRで彩度4，明度4～5である。板状構造で細小孔を含む。ち密度20前後で中，pH（H₂O）6.0～6.5。雲状の酸化沈積物及びマンガン班あり。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ10cm内外で腐植を欠き土性はCが主である。色は5YRで彩度2，明度6のものが多い。塊状構造で発達程度は中度である。ち密度10～15で疎，雲状の酸化沈積物に頗る富む。下層との境界は波状明瞭である。

第4層は厚さ10～15cmで腐植を欠き土性はSCLが主である。角柱状構造を呈し，雲状の酸化沈積物を含む。ち密度16前後で疎，pH（H₂O）6.0前後。下層との境界は波状明瞭である。

第5層は地表下おおむね60cm以下で未風化小中円礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 北見市字本沢 試坑No 仁28

第1層	0～16cm	腐植を含む暗褐（7.5YR3/4）のCL，未風化細小円礫に富む。発達中度の粒状構造，ち密度13で疎，pH（H ₂ O）6.4。調査時の湿り半乾，境界平坦明瞭。
第2層	16～40cm	腐植あり灰褐（7.5YR5/4）のCL，未風化細小中円礫を含む。板状構造，細小孔を含む。雲状の酸化沈積物を含む。ち密度20で中，pH（H ₂ O）6.3，調査時の湿り湿，境界状漸変。
第3層	40～46cm	腐植を欠く被灰（5YR6/2）のC，発達中度の細塊状構造，雲状の酸化沈積物に頗る富む，ち密度15で疎，調査時の湿り湿，境界波状明瞭。
第4層	46～60cm	腐植を欠く淡黄灰（5Y7/2）のSCL，角柱状構造，雲状の酸化沈積物を含む。ち密度16で疎，pH（H ₂ O）6.2，調査時の湿り潤，境界波状明瞭。
第5層	60～	未風化小中円礫からなる礫層

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～16	1.2	15.1	36.0	27.8	2.1	CL	98.5	3.02	2.42	0.26	9	3.2
2	16～40	2.6	27.5	32.6	21.4	18.5	CL	142.4	2.88	0.47	0.06	8	0.8
3	46～60	1.7	7.2	53.6	18.9	20.3	SCL	117.9	2.64	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.4	5.4	0.2	33.6	19.5	2.3	0.2	58.0	950	10.1
2	6.3	5.0	0.5	33.9	17.7	3.2	0.2	52.2	1,050	3.3
3	6.2	5.2	0.5	33.0	14.4	7.5	0.3	43.6	1,020	3.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては仁頃河岸統，北陽南統，開拓統，相内北統等があるが，相内北統とは堆積様式は同じであるが水田土壌であり，他の3統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（赤色珪岩，その他の風化堆積物）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 無加川流域の低平地

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置よりしばしば夏季低温に見まれて冷害凶作をうける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯，ビート，豆類，麦類，その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

明渠，暗渠排水を完備すること。磷酸，加里を増施することが必要である。

F 分布 北見市宇本沢その他の小河川流域に分布

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
本 沢 一 本 沢	IIIwItdg

② 土壌区別説明

本 沢 一 本 沢

代表的断面形態

所在地 北見市字小泉 試坑No 北57

第1層	0~20cm	腐植あり褐色(7.5YR4/3)のLS, 単粒構造, ち密度8で頗る疎, pH(H ₂ O)6.0, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	20~50cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/4)のS, 単粒構造, ち密度13で疎, pH(H ₂ O)6.4, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第3層	50~	未風化小中大円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	2.3	48.7	38.1	7.4	5.8	LS	0.90	0.10	9	1.6
2	20~50	0.4	60.6	34.0	4.4	1.0	S	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.5	0.3	19.6	12.3	0.3	0.8	62.7	560	65.9
2	6.4	5.5	0.3	16.6	8.2	2.1	0.0	49.4	924	12.9

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては川向南統, 端野中央統, 上常呂統, 川向中央等があるが, 川向南統とは乾湿, 土性が異りまた礫層の有無により, 端野中央統, 上常呂統は水田土壌であり, 川向中央統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 常呂川, 無加川流域の低平地。

C 気候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まれて冷害凶作をうける。年平均気温 5.6℃, 年間降水量 800mm前後。

D 植性及び利用状況

大部分畑地に利用され馬鈴薯, 麦類, 玉ねぎ等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用しながら漸次深耕することが必要である。苦土の施用が望ましい。

F 分布 北見市常呂川, 無加川の流域に分布。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
端野東—端野東	Il t d f

② 土壤区別説明

端 野 東 - 端 野 東

示 性 分 級 式 (畑)

土壌	表土	表土	表土	表土	透	保	湿	自	保	固	土	養	置	有	微	酸	障	有	物	災	増	地	傾	自	傾	人	侵	耐		
生	効	土	土	土	の	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	水	り	の	傾	斜	為	水	風	蝕	蝕	蝕	蝕	
産	表	の	の	の	乾	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	障	害	の	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	
力	の	の	の	の	粘	土	着	乾	沃	状	豊	"	"	"	有	害	障	害	の	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	
可	の	の	の	の	粘	土	着	乾	沃	状	豊	"	"	"	有	害	障	害	の	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕
能	の	の	の	の	粘	土	着	乾	沃	状	豊	"	"	"	有	害	障	害	の	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕
性	厚	難	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
等	深	含	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易
級	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ
	t	d	g	p		w		f		n							i		a		s								e	
	II	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	
簡略分級式	II t d f																													

A 土壤区の特徴

この土壤区は端野東統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は50cm内外で中庸である。作土の土性は粗粒質で粘着性なく耕起碎土は容易である。保水性小、透水性良好であるが過湿過干のおそれは少ない。しかし礫の多いところは過干のおそれがある。

保肥力中、燐酸固定力小で土層の塩基状態は良好である。作土は置換性苦土少く、下層は置換性加里が少い。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も少い。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用され馬鈴薯、ビート、豆類、玉ねぎ等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用して漸次深耕することが必要である。加里、苦土を増肥することが望ましい。

D 分 布

北見市常呂川、無加川流域に分布
 記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
 日 付 昭和43年3月31日

開 成 中 統 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量8~10%、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度2、明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.0~1.5で疎、pH(H₂O) 6.0~6.5。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~20cmで腐植含量2~3%、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度は中度であり、細小孔を含む。ち密度1.0~1.5で疎、

pH (H₂O) 6.0 ~ 6.5。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はCが主である。色は7.5 YRで彩度6、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度であり、細小孔を含む。ち密度1.5前後で疎、下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下おおむね60cm以下で腐植を欠き、土性はSL~Lである。色は7.5 YRで彩度6、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度で細小孔に富む。ち密度1.0~1.6で疎。

代表的断面形態

所在地 北見市字開成 試坑No 北75

第1層	0~22cm	腐植に富む黒褐 (7.5 YR 2/2) のCL, 発達弱度の粒状構造, ち密度1.3で疎, pH (H ₂ O) 6.5。調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	22~40cm	腐植を含む褐色 (7.5 YR 4/4) のLic, 発達中度の細塊状構造, 細小孔を含む。ち密度1.3で疎, pH (H ₂ O) 6.5, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第3層	40~60cm	腐植を欠く明褐 (7.5 YR 5/6) のC, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔を含む。ち密度1.5で疎, 調査時の湿り半湿, 境界波状漸変。
第4層	60~	腐植を欠く明褐 (7.5 YR 5/6) のSL, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔に富む。ち密度1.4で疎, 調査時の湿り湿。

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘土					
1	0~22	2.2	13.0	36.5	25.7	24.8	c L	4.82	0.49	10	8.3
2	22~40	2.3	29.2	22.1	13.5	35.2	Lic	1.50	0.17	9	2.6

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.5	6.2	0.3	36.3	34.5	2.3	0.5	95.0	958	46.6
2	6.5	5.8	0.3	26.6	21.0	4.4	0.2	78.9	1040	14.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては川向中央統, 若松中央統, 開拓統等がある。若松中央統は水田土壌で腐植層序, 乾湿が異り, 川向中央統, 開拓統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩 (礫岩その他の風化堆積物)

A-4 堆積様式 水積 (河成堆積)

B 地 形 常呂川支流流域の低平地。

C 気 候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作をうける。年平均気温 5.6°C, 年間降水量 800mm前後。

C 地力保全上の問題点

特に土壌的な問題はない。有機物を施用して漸次深耕すること。局部的に分布する排水不良地には明渠排水を完備することが望ましい。

D 分 布 北見市宇開成の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

川 向 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ17~20cmで腐植含量5%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度2、明度5のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度で細小孔を含む。ち密度1.8で疎、pH(H₂O) 5.0~5.5。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は2.5Yで彩度2、明度7~8。細塊状構造で発達程度は中度で、一部角柱状を呈し、細小孔を含む。雲状の酸化沈積物に富む。ち密度2.0前後で中、pH(H₂O) 5.0~5.5。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ15cm内外で腐植を欠き、土性はSCLが主である。色は2.5YRで彩度2明度7~8。塊状構造で発達程度は弱度で、細小孔に富む。ち密度2.0前後で中、pH(H₂O) 5.0~5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下おおむね50cm以下で腐植を欠き、土性はHCが主である。色は10YRで彩度3、明度7のものが多い。均質連絡状構造を呈し、雲状の酸化沈積物を含む。ち密度2.0前後で中である。

代 表 的 断 面 形 態

常呂郡端野町字仁頃 試坑No. 北30

第1層	0~17cm	腐植を含む黄褐灰(10YR5/2)のCL, 発達弱度の粒状構造, ち密度1.8で疎, pH(H ₂ O) 5.4, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	17~35cm	腐植を欠く灰白(2.5Y7/2)のLiC, 発達中度の細塊状構造で一部角柱状, 細小孔を含む。雲状の酸化沈積物に富む。ち密度2.2で中, pH(H ₂ O) 5.4, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第3層	35~50cm	腐植を欠く灰白(2.5Y7/2) SCL, 発達弱度の塊状構造, 細小孔に富む。ち密度2.0で中, pH(H ₂ O) 5.4, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第4層	50	腐植を欠く灰黄橙(10YR7/3)のHC, 均質連絡状構造, 雲状の酸化沈積物を含む。ち密度2.0で中, 調査時の湿り湿。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~17	2.8	15.5	28.0	26.8	29.7	CL	3.18	0.36	9	5.5
2	17~35	3.0	19.8	24.9	36.4	27.9	LiC	0.51	0.08	6	0.9
3	35~50	3.1	40.5	30.4	12.1	17.0	SCL	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y _i	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.35	4.15	2.81	25.7	11.9	2.8	0.2	46.3	1.020	7.6
2	5.25	3.75	10.63	24.7	12.3	3.8	0.1	49.8	980	2.1
3	5.25	3.75	9.38	24.9	12.1	5.9	0.1	48.6	1.010	1.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては端野東統、若松東統、川向中央統等があるが、端野東とは礫層、酸化沈積物の有無、色層序の相違により、また若松東統、川向中央統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（頁岩その他の風化堆積物）

A-4 堆積様式 水積（河成堆肥）

B 地形 常呂川流域の低平地で、古い河成段丘。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作をうける。年平均気温 5.6℃、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、玉ねぎ、豆類、麦類、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

下層粘質なため透水悪く排水不良を呈するところが多いから暗渠排水の完全な実施が必要である。堆肥、緑肥等有機物の施用を図つて漸次深耕し、加里、磷酸を増施することが望ましい。

F 分布 北見市字川東の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
川 向 南 - 川 向 南	llwll t p f n

② 土壌区別説明

川 向 南 - 川 向 南

細塊状構造で発達程度は中程度で細小孔を含む。ち密度 10~18 で疎，pH (H₂O) 6.0 前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ 20~30 cm で腐植を欠き，土性は CL が主である。半風化，腐朽細小中半角，角礫に富む。色は 10 YR で彩度 6，明度 6 のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱程度で細小孔に富む。ち密度 20 前後で中，pH (H₂O) 5.0~5.5。下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下おおむね 60 cm 以下で，未風化小中角礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 北見市宇若松 試坑 No. 北4B

第1層	0~18 cm	腐植に富む黒褐 (7.5 YR 3/2) の L，未風化，腐朽細小中半角，角礫を含む。発達弱度の粒状構造，ち密度 12 で疎，pH (H ₂ O) 6.4 調査時の湿り半乾，境界平坦明瞭。
第2層	18~35 cm	腐植あり褐色 (7.5 YR 4/4) の L，半風化，腐朽細小中半角，角礫に富む。発達中程度の細塊状構造，細小孔を含む。ち密度 18 で疎，pH (H ₂ O) 5.8，調査時の湿り半乾，境界波状漸変。
第3層	35~60 cm	腐植を欠く明黄褐 (10 YR 6/6) の CL，半風化，腐朽細小中半角，角礫に富む。発達弱度の細塊状構造，細小孔に富む。ち密度 20 で中，pH (H ₂ O) 5.3，調査時の湿り半乾，境界波状明瞭。
第4層	60~	未風化小中大角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

順位	採取部 位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率 %	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	1.9	14.7	39.9	31.2	14.2	L	91.9	2.90	3.15	0.31	10	5.4
2	18~35	3.8	20.8	31.0	33.4	14.8	L	130.6	3.08	0.69	0.07	10	1.2
3	35~60	5.4	28.4	30.9	23.7	17.0	CL	137.2	2.88	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 me/100
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.4	5.7	0.3	30.7	24.5	2.0	0.8	79.5	7.34	29.3
2	5.8	4.6	1.5	34.3	24.7	5.5	0.4	72.0	11.00	11.2
3	5.3	4.0	4.5	51.2	37.4	11.1	0.3	73.0	17.60	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては若松東統，川向沢統，若松中央統等があるが，何れも堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩 (古生層砂岩)

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 標高 100~200 m の波状性傾斜地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まれて冷害凶作をうける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

緩傾斜地は畑地に利用され、馬鈴薯、麦類、牧草等その他が栽培され、他は山林原野になっている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培，緑作帯の設置，牧草栽培等水蝕防止対策が必要である。有機物を施用して漸次深耕することが望ましい。

F 分布 北見市字川東，若松，南丘の大部分

調査及び記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
川向中央—川向中央	Ⅲ s Ⅱ t d i e

② 土壌区別説明

川向中央—川向中央

示性分級式（畑）

土表有表耕	()	土	()	自	()	養	()	障	()	災	()	傾	()	侵	()													
壤	効	表	表	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐	耐					
生	土	耘	土	地	然	屬	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風									
産	土	の	土	の	風	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	障	の	傾	蝕				
力	可	の	層	の	粘	土	基	灰	土	里	酸	要	の	危	危	傾	方	蝕	蝕									
能	性	厚	含	難	着	硬	沃	状	豊	含	"	"	"	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性				
等	深	性	性	性	性	度	力	力	態	量	"	"	"	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性				
級	さ	量	易	湿	度	度	否	否	否	否	否	否	否	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性				
	t	d	g	p	w	f	n	n	i	a	s	e																
Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	2	1	1	Ⅱ	1	2	1	Ⅱ	1	2	1	Ⅱ	1	2	Ⅱ	1	1	Ⅲ	3	—	Ⅱ	2	2	1
簡略分級式		Ⅲ s Ⅱ t d i e																										

A 土壌区の特徴

この土壌区は川向中央統に属する。作土の厚さは15～20cmで中庸，有効土層も60cm内外で中庸である。作土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。保水性中庸，透水良好で過湿，過干のおそれは少ない。

保肥力大，磷酸固定力中で土層の塩基状態は良好で自然肥沃度はやや高い。作土，心土とも養分含量は比較的高い。地形は5～15°の傾斜地で侵蝕のおそれがある。礫層浅く物理的障害をうける場合がある。

B 植生及び利用状況

緩傾斜地は畑地に利用され、馬鈴薯、麦類、牧草その他の作物が栽培され、他は山林原野になつてい

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯設置等の水蝕防止対策が特に必要である。有機物を施用して漸次深耕することも望ましい。

D 分布 北見市字川東、若松、南丘の大部分

記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

北 陽 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量5%前後、土性はLが主である。色は10YRで彩度3、明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。

ち密度1.5前後で疎、pH(H₂O)5.5前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量2%以下、土性はLが主である。色は10YRで彩度3、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度で、細小孔に富む。ち密度1.5~1.8で疎、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ30cm内外で腐植を欠き、土性はSLが主である。色は10YRで彩度4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度で細小孔に富む。ち密度1.5~1.8で疎 pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下60~70cmで腐植を欠き、土性はSLが主である。半風化小中大角礫に富む。色は10YRで彩度4、明度7のものが多い。単粒構造、孔隙多、ち密度2.0前後で中である。

代表的断面形態

所在地 北見市字美里 試坑46仁7

第1層	0~20cm	腐植に富む黒褐(10YR2/3)のL、発達弱度の粒状構造、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	20~35cm	腐植あり灰黄褐(10YR5/3)のL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む。ち密度1.7で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	35~65cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/4)のSL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む。ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第4層	65~	腐植を欠く灰黄橙(10YR7/4)のSL、半風化小中大角礫に富む。単粒状構造、孔隙多、ち密度1.9で中、調査時の湿り半乾。

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~20	1.5	6.0	51.1	30.3	12.6	L	78.7	3.04	2.98	0.24	12	5.0
2	20~35	2.0	8.4	47.8	30.1	13.7	L	98.0	2.93	0.93	0.11	9	1.6
3	55~65	2.0	11.3	61.9	19.8	7.0	S L	105.8	2.83	—	—	—	—

層位	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.6	2.0	18.2	8.4	0.6	0.4	46.2	592	15.0
2	5.9	4.8	0.8	12.5	6.5	0.9	0.0	52.0	673	2.4
3	5.6	4.4	5.0	14.1	6.1	0.8	0.4	43.6	714	1.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては仁頃河岸統，美里北統，開拓統があるが何れも堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 固結水成岩（三紀層凝灰質砂岩）

A-4 堆積様式 崩積

B 地 形 標高140~200mの波状性傾斜~無傾斜地。

C 気 候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作をうける。年平均気温5.6℃，年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分は畑地に利用され馬鈴薯，ビート，麦類，牧草等が栽培され，他は山林原野になっている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培，緑作帯設置等水蝕防止対策が必要である。有機物を施用して地力の増進に努めることが望ましい。

F 分 布 北見市宇北陽，美里の一部

調査及び記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
北陽南一北陽南	llslltfe

② 土壌区別説明

北陽南一北陽南

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人
生効土	土	土	然	層分換	"効	害理	冠す	
産土	土	土	の地			物的	水べ	然斜
力	の	の風		の性	態量			為
可の層	の	の乾	水水潤肥肥定塩	の石苦加磷		害質	害のり	の
能の礫	粘土			基	灰土里酸要	の	危危	傾
性厚	難土	の乾	沃	状	豊含	有	害	方傾
等	深含	性性	性性	力力	態量	" "	素度	無性
級さ	さ量	易	湿	度	否	性	性	斜
	t d g p	w	f	n		i	a	s
	I I I I 2 2 1	I 1 3 1	2 1 2	I 1 2 1 1 1 2	I 1 1	I 1 1	3 --	2 2 1
	簡略分級式 s t f e							

A 土壤統の特徴

この土壤区は北陽南統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は1m以下で深い。作土の土性は中粒質で粘着性やや弱く耕起碎土は容易である。保水性小、透水性良好で過湿、過干のおそれはない。

保肥力中、磷酸固定力小で土層の塩基状態は中庸である。作土は置換性苦土やや少く、下層は磷酸、加里が少く苦土が中庸である。地形は傾斜～緩傾斜で侵蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

大部分は耕地に利用され、馬鈴薯、麦類、ビート、牧草等が栽培され、他は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯設置等水蝕防止対策が特に必要である。有機物を施用して地力の増進を図ることが望ましい。

D 分布 北見市宇北陽、美里の一部

記載責任者 高尾欽弥(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

仁 頃 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量6～7%、土性はCLが主である。未風化小中大半角、角礫に富む。色は7.5YRで彩度3、明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.5～1.8で疎、pH(H₂O)6.0～6.5。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量2%以下、土性はCLが主である。未風化細小中半角礫に富む。色は7.5 YRで彩度4、明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度は強度であり、細小孔を含む。ち密度1.8前後で疎、pH(H₂O)6.0~6.5。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20~30cmで腐植を欠き、土性はCLが主である。未風化細小中半角礫を含む。色は7.5 YRで彩度6、明度4~5。細塊状構造で発達程度は弱~中程度で細小孔を含む。ち密度2.0前後で中、下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下おおむね60cm以下で未風化小中大半角、角礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 北見市宇美里 試坑No. 仁8B

第1層	0~20cm	腐植に富む暗褐色(7.5 YR 3/3)のCL,半風化細小中半角礫に富む。発達弱度の粒状構造,ち密度1.7で疎,pH(H ₂ O)6.3,調査時の湿り半乾,境界平坦。
第2層	20~35cm	腐植あり褐色(7.5 YR 4/4)のCL,半風化細小中半角,角礫に富む。発達中程度の細塊状構造,細小孔を含む。ち密度1.8で疎,pH(H ₂ O)6.3,調査時の湿り半乾,境界波状漸変。
第3層	35~60cm	腐植を欠く明褐色(7.5 YR 5/6)のCL,半風化細小中半角,角礫を含む。発達弱度の細塊状構造,細小孔を含む。ち密度2.0で中,調査時の湿り半乾。境界波状明瞭。
第4層	60~	未風化細小中大半角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位	水分%	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	2.4	13.4	36.3	29.5	20.8	CL	74.0	2.83	3.84	0.35	11	6.7
2	20~35	1.5	11.7	33.7	31.1	23.5	CL	72.8	2.90	0.92	0.10	9	1.6

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.3	5.7	0.2	28.8	25.4	2.8	0.4	88.2	81.6	5.7
2	6.3	5.2	0.5	20.5	15.4	0.4	0.1	75.1	83.6	2.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては仁頃河岸統,仁頃中央統,美里北統,開拓統等があるが何れも堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩,変成岩(古生層砂岩,赤色珪岩)

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 標高140~180mの波状性傾斜地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作をうける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

畑地には馬鈴薯、ビート、麦類、牧草等が栽培され、他は山林原野になつている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培，緑作帯設置，牧草栽培等水蝕防止対策が必要である。有機物を施用して漸次深耕することが望ましい。

F 分 布 北見市字北陽，美里の一部

調査及び記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌区の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
仁 頃 - 仁 頃	ⅢsⅡtdgpe

② 土壌区別説明

仁 頃 - 仁 頃

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	表	表	土	自	養	障	災	傾	侵	耐
壤	効	土	土	土	透	保	固	置	有	微	酸
生	土	土	土	土	然	層	分	換	効	害	理
産	土	土	土	土	の	の	の	の	の	の	の
力	の	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩
可	の	の	の	の	の	石	苦	加	磷	害	質
能	の	粘	土	土	基	灰	土	里	酸	要	の
性	厚	難	土	着	乾	沃	状	豊	含	有	害
等	深	含	性	性	性	性	力	力	態	量	素
級	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	斜	度
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	2	2	2	Ⅰ	1	2
	1	2	2	1	Ⅰ	2	2	1	Ⅰ	1	1
	1	1	1	2	1	1	1	1	Ⅰ	1	1
	Ⅲ	3	--	Ⅱ	2	2	1				
簡略分級式	ⅢsⅡtdgpe										

A 土壌区の特徴

この土壌区は仁頃統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸，有効土層は60cm内外で中庸である。作土の土性は中粒質で粘着性中庸であるが固結し易いため耕起碎土はやや困難である。保水性中庸，透水性良好で過湿，過干のおそれは少い。

保肥力大，磷酸固定力中で土層の塩基状態は良好である。作土は有効態磷酸がやや少く，下層は磷酸，加里，苦土が少い。地形は緩傾斜～傾斜を呈し侵蝕のおそれがある。礫層やや浅いため物理的障害をうけるところがある。

B 植生及び利用状況

畑地には馬鈴薯、ビート、麦類、牧草等が栽培されており、他は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯の設置、牧草栽培等の水蝕防止対策が必要である。有機物を施用して漸次深耕すること。磷酸、加里を増施すること等が望ましい。

D 分 布 北見市宇北陽、美里の一部

記載責任者 高尾欽弥(北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

仁 頃 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量4~5%, 土性はCLが主である。未風化細小中角礫を含む。色は7.5 YRで彩度3, 明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.5~1.8で疎, pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~20cmで腐植含量2%以下, 土性はLが主である。未風化細小中角礫に富む。色は5 YRで彩度4, 明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中度であり, 細小孔に富む。ち密度2.0~2.4で中, pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ10~20cmで腐植を欠き, 土性はLiCが主である。未風化細小中角礫を含む。色は5 YRで彩度4, 明度4のものが多い。塊状構造で発達程度は中度であり, 細小孔を含む。ち密度2.5前後で密, pH(H₂O)5.0~5.5。下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下おおむね50cm以下で, 未風化小中大半角, 角礫からなる礫層であり堅密である。

代表的断面形態

所在地 北見市宇仁頃 試坑No. 仁1

第1層	0~17cm	腐植を含む黒褐(7.5 YR 2/3)のCL, 未風化細小中角礫を含む。発達弱度の粒状構造, ち密度1.7で疎, pH(H ₂ O)6.0, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	17~32cm	腐植を欠く灰赤褐(5 YR 5/4)のL, 未風化細小中角礫に富む。発達中度の細塊状構造, 細小孔に富む。ち密度2.3で中, pH(H ₂ O)5.5調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第3層	32~50cm	腐植を欠く赤褐(5 YR 4/4)のLiC, 未風化細小中角礫を含む。発達弱度の塊状構造, 細小孔を含む。ち密度2.5で密, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第4層	50~	未風化小中大角礫からなる礫層でやや堅密である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			組砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~17	2.5	5.3	32.1	41.2	21.4	c L	2.65	0.22	12	4.6
2	17~32	1.9	40.0	19.0	29.1	11.9	L	0.53	0.07	8	0.9
3	32~50	3.1	19.4	21.4	32.2	27.0	LiC	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.2	0.5	26.3	17.4	1.5	0.1	66.2	700	3.7
2	5.5	4.5	9.0	31.1	12.6	4.2	0.1	40.5	856	1.6
3	5.3	4.5	10.8	37.4	16.4	6.8	0.1	43.9	1,090	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては開拓統，仁頃統，柏木統，大和統等がある。大和統とは同一堆積様式であるが盤層の有無により異り，他の3土壌統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩（古生層砂岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形 標高120~180mの波状性傾斜地

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作をうける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm前後。

D 植生及び利用状況

畑地には馬鈴薯，麦類，ビート，牧草その他の作物が栽培され，他は山林原野になつている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培，緑作帯の設置，牧草栽培等の水蝕防止対策が必要である。有機物を施用して深耕すること。磷酸，加里を増施することが望ましい。

F 分布 北見市字仁頃の一部

調査及び記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
仁頃南 - 仁頃南	Usltdnie

② 土壌区説明

仁頃南 - 仁頃南

示性分級式（畑）

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地
生	効土	土	然	層分換	効	害理	冠す
産	土	土	の地				斜
力	土の	の風	の性	態量	物的	水り	然為
可	の層	の乾	の水水	潤肥定	塩の石	害質	害の
能	の礫	粘土					障の
性	厚含	難土着	乾	決	基	灰土里	酸要
等	深	性性	性性	力力	態量	素度	無性
級	ささ	量易	湿	度	否	性	性
	t d g p	w	f	n	i	a	s e
	III II II I I 2 2 1	I 1 2 1	I 1 1 1	II 1 1 3 2 1 1	II 1 2	I 1 1	III 3 -- II 2 2 1
	簡略分級式		III s II t d n i e				

A 土壌区の特徴

この土壌区は仁頃南統に属する。作土の厚さは15～20cmで中庸、有効土層は50cm内外で中庸である。作土の土性は中粒質で粘着性中庸で耕起碎土は容易である。保水性中庸、透水性やや良好で過湿過干のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態は良好である。作土は有効態磷酸、置換性加里が少く、下層も磷酸、加里が少くやや酸性を呈する。地形は傾斜地が多く侵蝕のおそれがある。礫層が一部浅く物理的障害をうけるところがある。

B 植生及び利用状況

畑地には馬鈴薯、ビート、麦類、牧草等が栽培され、他は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯の設置、牧草栽培等の水蝕防止対策が必要である。有機物の施用を図つて漸次深耕すること。磷酸、加里を増施することが必要であろう。

D 分布 北見市字仁頃の一部

記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

端 野 西 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量4～5%、土性はS・Lが主である。未風化細小半角礫に富み、色は7.5YRで彩度3、明度3のものが多し。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.0～1.5で疎、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ30～40cmで腐植含量2%以下、土性はS・Lが主である。未風化細小中角礫を含む。色は7.5YRで彩度4、明度4のものが多し。細塊状構造で、発達程度は中～強度であり、細小孔に富

む。ち密度15前後で疎，pH(H₂O) 6.0～6.5。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き，土性はSとCの互層，未風化細小中半角，角礫に富む。色は7.5YRで彩度4，明度4のものが多。ち密度15内外で疎，下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下おおむね80cm以下で，未風化細小中大半角，角礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 常呂郡端野町字二区 試坑No. 北71

第1層	0～20cm	腐植を含む暗褐(7.5YR3/3)のScL，未風化細小中半角礫に富む。発達弱度の粒状構造，ち密度15で疎，pH(H ₂ O)6.1，調査時の湿り半乾，境界平坦明瞭。
第2層	20～60cm	腐植を含む褐色(7.5YR2/2)ScL，未風化細小中半角，角礫を含む。発達中度の細塊状構造，細小孔に富む。ち密度17で疎，pH(H ₂ O)6.3，調査時の湿り半乾，境界波状明瞭。
第3層	60～80cm	腐植を欠く褐色(7.5YR4/4)のSとCの互層，未風化細小中角礫に富む。細小孔に富む。ち密度15で疎，調査時の湿り湿，境界波状明瞭。
第4層	80～	未風化小中大半角，角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0～20	0.6	24.0	37.8	18.0	20.2	ScL	2.58	0.29	9	4.5
2	20～60	2.7	26.4	31.3	19.4	22.9	ScL	0.76	0.11	7	1.3

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.05	4.55	0.30	44.8	33.3	3.1	0.3	74.3	1.395	23.3
2	6.25	4.25	0.60	44.7	38.7	2.9	0.2	86.6	1.690	7.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては相内北統，本沢統があるが，何れも堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 変成岩，固結水成岩混(赤色珪岩，古生層砂岩混)

A-4 堆積様式 水積(扇状堆土)

B 地 形 山地に連なる緩傾斜地

C 気 候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作をうける。年平均気温5.6℃，年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用され馬鈴薯，ビート，麦類，豆類等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

水蝕防止対策，有機物の施用が必要である。

F 分 布 北見市字相内の一部

調査及び記載責任者 高尾欽弥(北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(1) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
端野西一端野西	IItdgse

② 土壤区別説明

端野西一端野西

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	
生	効土	耘土	土の地	然	層分換	"効	害理冠	
産	土の	の風	の性	態量	物的	水り	然為	
力	の層	のの	乾の水	水潤肥定	塩の石	苦加燐	害質害	
可	の礫	粘土	基	灰土里酸	要	の危危	傾方傾	
能	厚含	難土着	の乾	沃	豊	状含	有害	
性	深	性性	さ性	性性	度力	態量	"素度	
等	性性	易	湿	度	否	性	性	
級	さ	量	易	湿	度	否	性	
	tdgp	w	f	n	i	a	s e	
	II	II	II	I	2	2	1	
	I	1	2	1	I	1	2	
	1	I	1	2	1	I	1	
	1	1	1	2	1	1	1	
	I	1	1	1	I	1	1	
	II	2	--	II	2	2	1	
	簡略分級式		IItdgse					

A 土壤区の特徴

この土壤区は端野西統に属する。作土の厚さは15~20cmで中庸、有効土層も80cm内外で中庸である。作土の土性は中粒質で粘着性中庸であり耕起碎土は容易である。保水性中庸、透水性やや良好で過湿、過干のおそれは少い。

保肥力大、燐酸固定力中で土層の塩基状態は良好で、自然肥沃度はやや高い。作土の養分含量は比較的存在するが、下層は燐酸、加里がやや少い。地形は緩傾斜を呈し侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用され馬鈴薯、ビート、豆類、麦類等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯の設置等の水蝕防止対策を講じ、有機物を施用して漸次深耕することが必要である。加里を増施することが望ましい。

D 分 布 北見市字相内の一部

記載責任者 高尾欽弥(北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

大 和 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量5~6%, 土性はLが主である。半風化細小中半角礫を含む。色は10YRで彩度1, 明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.0~1.2で疎, pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~20cmで腐植含量2%以下, 土性はSCLが主である。半風化細小中半角礫に頗る富む。色は10YRで彩度3, 明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度中度であり, 細小孔を含む。ち密度2.0前後で中度。pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状明瞭である。

第3層は厚さ10~20cmで腐植を欠き, 土性はCLが主である。半風化細小半角礫に富み, 色は10YRで彩度5, 明度6のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔を含む。ち密度2.0前後で中, 下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表化おおもね50cm以下で腐植を欠き, 土性はCLが主である。半風化細小半角礫に富み, 色は10YRで彩度5, 明度6のものが多い。均質連結状で盤層状を呈す。ち密度2.8~3.0で密~甚密。雲状の酸化沈積物に富む。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 北見市字大和 試坑 坂 仁 1 3

第1層	0~20cm	腐植に富む黒褐(10YR 3/1)のL, 半風化細小中半角礫を含む。発達弱度の粒状構造, ち密度1.2で疎, pH(H ₂ O)6.0, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	20~35cm	腐植あり灰黄褐(10YR 5/3)のSCL, 半風化細小中半角礫に頗る富む。発達中度の細塊状構造, 細小孔を含む。ち密度2.0で中, pH(H ₂ O)6.0, 調査時の湿り半乾, 境界波状明瞭。
第3層	35~50cm	腐植を欠く明黄褐(10YR 3/5)のCL, 半風化細小半角礫に富む。発達程度の湿り半乾, 境界波状漸変。
第4層	50~	腐植を欠く灰黄褐(10YR 6/4)のCL, 半風化細小半角礫に富む。均質連結状, ち密度3.0前後で甚密, 雲状の酸化沈積物に富む。調査時の湿り半乾。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~20	2.7	11.9	44.5	23.7	19.8	L	3.27	0.35	9	5.6
2	20~35	1.9	32.2	25.5	19.9	22.4	SCL	1.14	0.15	8	2.0

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.3	0.3	3.69	2.11	3.2	0.4	57.2	9.47	1.48
2	6.0	4.9	0.5	2.96	1.48	3.8	0.2	50.0	9.59	1.9

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては仁頃中央統，開拓統，仁頃南統等があるが，仁頃南統とは堆積様式を同じくするが盤層の有無により，開拓統，仁頃中央統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩（古生層砂岩），変成岩（赤色珪岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形 標高60～100mの緩傾斜地

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作をうける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて馬鈴薯，ビート，豆類，牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培，緑作帯の設置等の水蝕防止対策が必要である。心土破碎，有機物の施用を図って深耕することが望ましい。

F 分布 北見市宇大和の一部

調査及び記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
大和一大和	d tgpi se

② 土壌区別説明

大 和 一 大 和

第3層は地表下30～40cm以下で、半風化小中大半角礫からなる礫層、礫間に土壤を混ざる。

代表的断面形態

所在地 北見市字開成 試坑No 北76

第1層	0～20cm	腐植に富む暗褐(7.5 YR 3/3)のL, 半風化細小中角礫を含む, 発達弱度の粒状構造, ち密度1.5で疎, pH(H ₂ O)6.1, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	20～35cm	腐植あり褐色(7.5 YR 4/6) LiC, 半風化細小中角礫に頗る富む。発達弱度の細塊状構造, 細小孔に富む, ち密度1.5で疎, pH(H ₂ O)6.1, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第3層	35～	半風化小中大角礫からなる礫層, 礫層に土壤を混入。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～20	4.4	1.47	4.49	2.65	13.9	L	3.58	0.38	9	6.2
2	20～35	3.7	2.71	2.69	1.84	27.6	LiC	1.01	0.12	8	1.7

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	5.7	0.3	4.2.2	2.8.8	3.3	0.5	6.8.2	9.2.4	6.0.2
2	6.1	5.5	0.3	4.4.5	2.9.8	7.8	0.1	6.7.0	1.3.5.0	4.5.3

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては開成東統, 若松中央統があるが何れも堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩(中生層砂岩)

A-4 堆積様式 水積(扇状堆土)

B 地形 小河川の流域に分布する扇状地

C 気候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作をうける。年平均気温 5.6℃, 年間降水量 800mm前後

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて馬鈴薯, ビート, ハツカ, 麦類, 豆類等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培等の水蝕防止対策を構じ, 有機物を施用して漸次深耕することが必要である。加里の増施 緩効性窒素肥料の施用等を考慮することが望ましい。

F 分布 北見市字開成の一部

調査及び記載責任者 高尾欽弥(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

仁 頃 河 岸 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm以外で腐植含量9%内外，土性はCLが主である。未風化細小中円，半角礫を含み，色は7.5 YRで彩度1，明度1，粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.6で疎，pH(H₂O)5.3前後，下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20～30cmで腐植含量2～3%，土性はL1Cが主である。色は7.5 YRで彩度4，明度4。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む。ち密度1.6前後で疎，pH(H₂O)5.2前後。下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き，土性はLが主である。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む。ち密度2.0前後で中，下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は地表下概ね70cm以下で腐植を欠き，土性はCLが主である。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む。斑状の酸化沈積物に富む。ち密度2.0前後で中。

代表的断面形態

所在地 北見市仁頃 試坑No 仁150

層位	採取部 cm	腐植を含む黒色(7.5 YR 2/1)のCL，未風化細小円礫を含む。発達弱度の細粒状構造，ち密度1.6で疎，pH(H ₂ O)5.3，調査時の湿り半乾，境界平坦明瞭。
第1層	0～25cm	
第2層	22～50cm	腐植を含む褐色(7.5 YR 4/4)L1C，発達弱度の細塊構造，細小孔に富む。ち密度1.6で疎，pH(H ₂ O)5.2，調査時の湿り半乾，境界漸変。
第3層	50～70cm	腐植を欠く褐色(7.5 YR 4/6)のL，発達弱度の細塊状構造，細小孔に富む。ち密度2.0前後で中，調査時の湿り湿。境界平坦明瞭。
第4層	70～	腐植を欠く明褐(7.5 YR 5/6)のCL，発達程度の細塊状構造，細小孔に富む。ち密度2.0前後で中，調査時の湿り湿。斑状酸化沈積物に富む。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～25	3.3	2.1	46.9	27.4	23.6	CL	6.09	0.51	1.2	10.5
2	25～50	2.6	5.2	33.6	31.0	30.2	L1C	1.88	0.19	1.0	3.3

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.5	4.3	3.80	39.3	15.8	3.1	0.4	4.02	1.170	19.7
2	5.5	4.3	1.30	42.2	21.8	1.7	0.7	5.17	9.89	1.7

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては北陽統，本沢統，開拓統等があるが，何れも堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形

台地と沖積低平地の間に分布する緩傾斜～平坦地

C 気候

気候一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まわれ，しばしば冷湿害を受ける。年平均気温 5.2℃，年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され，麦類，豆類，ビート，馬鈴薯，ハツカ等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

台地からの伏流水の影響を受けて湿性を呈するところが一部存在するから，かかるところは明渠排水暗渠排水の施行が必要であろう。一般に冷湿害対策のため軽度の暗水が望ましい。

F 分布 端野町仁頃の一部

調査及び記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
仁頃河岸一仁頃河岸	II t w f

② 土壤区別説明

仁頃河岸一仁頃河岸

示性分級式（畑）

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤	表表表	透保湿	保固土	置	有微度	有物	増地
生	効土	土	然	層分換	" " 効	害理	冠す
産	土	土	の地	の性	態量	物的	水べり
力	土	の	の風	の性	態量	物的	水べり
可	の層	の乾	の水水潤肥定塩	の石苦加礫	害質	害の	の蝕
能	の	粘土		基	灰土里酸要	の	危危
性	厚	含難	の乾	沃	状	有	險險
等	深	性性	さ	性性	力力	態量	" " 素度
級	さ	量易	湿	度	否	性	性
	t d g p	w	f	n	j	a	s e
	II II II I 2 1 1	II 2 3 2	II 1 2 2	I 1 1 1 1 1 2	I 1 1	I 1 1	I 1 -- I 1 2 1
	簡略分級式		II t w f				

A 土壤統の特徴

この土壤区は仁頃河岸統に属する。表土の厚さは2.5cmで中庸、有効土層は1m以上で深い。表土は中粒質で粘着性弱く耕起、砕土は容易である。

保水性大、透水性中庸であるが一般に台地滲透水の影響を受けて適湿～弱湿性を呈し、平年時は間にならないが低温寡照年には冷害を受け易い。

保肥力大、磷酸固定力中庸で、土層の塩基状態も中庸であり、自然肥沃度はやや高い。作土の養分含量は比較的あるが下層はやや瘠薄である。一般にやや酸性を呈する。特殊の障害性は存在しない。地形は緩傾斜またはやや平坦で侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、荳類、ビート、馬鈴薯、ハツカ等が栽培されている。

C 地力保全上の問題

平年時は問題がないが低温には湿害を受けるおそれがあるから軽度の暗渠排水が望ましい。

施肥は加里、苦土、磷酸は重点を置くべきで、特に低温年には窒素過剰による出来遅れを来さぬよう注意が必要である。腐植含量多いが、牧草栽培、有機物施用は地力の増進、冷湿年における被害程度の軽減等に有効であると考えられる。

D 分布 端野町字仁頃の一部

記載責任者 高尾欽弥(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

仁 頃 河 段 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～30cmで腐植含量9～10%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度1のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度18で疎、pH(H₂O)5.4前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10～20cmで腐植含量2%以下、土性はSCLが主である。色は10YRで彩度2、明度7のものが多く、未風化細小礫を含む。下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ30cm内外で腐植を欠き、土性はSLが主である。色は10YRで彩度4、明度7、単粒構造、細小孔に頗る富む。斑状の酸化沈積物を含み、ち密度15で疎、pH(H₂O)5.4前後、下層との境界は漸変である。

第4層は地表下概ね70cm以下で腐植を欠き、土性はSである。色は10YRで彩度2、明度7のものも多く、単粒構造でち密度15疎である。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 北見市仁頃 試坑₁₆ 仁155

第1層	0～27cm	腐植に富む黒色(10YR1/1)のLiC、発達程度の細粒状構造、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	27～40cm	腐植あり淡黄褐灰(10YR7/2)のSCL、未風化細小礫を含む、発達程度の塊状構造、細小孔に富む、ち密度19で中、pH(H ₂ O)5.3斑状の酸化沈積物を含む、調査時の湿り半乾、境界漸変。

第3層	40~70cm	腐植を欠く灰黄橙(10YR7/4)のSL,発達程度の塊状構造,細小孔に頗る富む,ち密度1.5で疎,pH(H ₂ O)5.4,斑状の酸化沈積物を含む調査時の湿り湿,境界漸変。
第4層	70~	淡黄褐灰(10YR7/2)のS,単粒構造,ち密度1.5で疎,調査時の湿り湿,100cmで湧水。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~27	3.2	7.9	40.0	23.6	28.5	LiC	5.53	0.52	11	9.5
2	27~40	1.9	24.7	39.6	19.7	16.0	SCL	0.74	0.12	6	1.3
3	40~70	0.9	13.6	55.2	19.3	11.9	S L	—	—	—	—

層位	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩 基 置 換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有 効 態 酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	4.3	4.69	35.3	14.2	0.4	0.2	37.1	1260	20.0
2	5.3	4.0	2.81	14.5	7.0	0.3	0.2	35.9	612	8.6
3	5.4	4.0	3.50	14.1	8.4	2.2	0.3	48.5	646	1.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては仁頃統,仁頃中央統があるが,堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(扇状堆土)

B 地 形

沖積低平地と台地の間に分布する緩傾斜~平坦地

C 気 候

気候一般に冷涼で,オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ,しばしば冷湿害を受ける。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され,麦類,豆類,馬鈴薯,ビート,ハツカ等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

過湿のおそれが多いから完全な暗渠排水の実施が必要である。

F 分 布 端野町字仁頃の一部

調査及び記載責任者 高尾欽弥(北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
仁頃河段-仁頃河段	ll wll f

② 土壌区別説明

相内北	川向沢一川向沢 相内北一相内北 若松中央一若松中央	535	磷酸，加里がやや少ない	施肥合理化
上常呂	相内中央一相内中央 上常呂一上常呂 端野中央西一端野中央西	1199	過湿のおそれがある 磷酸，加里が少ない	排水 施肥合理化
広郷南	広郷南一広郷南	85	過湿のおそれが多い 石灰，苦土が少ない 磷酸が少ない	排水 施肥合理化

畑

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
柏木	南 丘一南 丘 開成東一開成東 常川南一常川南 柏木一柏木 本沢西一本沢西	964	侵蝕のおそれがある 腐植少く，作土が浅い	保全耕作 有機物施用 深耕
開拓	開 拓	683	侵蝕のおそれがある 磷酸，塩基が少ない 侵蝕による地力差がある	保全耕作 施肥合理化 有機物施用，深耕
若松東	広 郷一広 郷 若松東一若松東 福野一福野	1716	侵蝕のおそれがある 磷酸，塩基が少ない	保全耕作 施肥合理化
美里北	広 郷東一広 郷東 美里北一美里北 柏木南一柏木南	546	下層堅密 過湿のおそれがある 侵蝕のおそれがある 石灰，加里，苦土が少ない	心土破碎 排水 保全耕作 塩基の補給
昭栄中央	昭栄中央一昭栄中央 仁頃中央一仁頃中央 開成中央一開成中央	523	腐植少い 表土，作土が浅い 一部過湿のおそれがある	有機物施用 深耕 一部軽度の排水
本沢	本 沢一本 沢 大正沢一大正沢 川向南一川向南 仁頃河段一仁頃河段	497	過湿のおそれが多い 腐植が少ない 加里，苦土が少ない	排水 有機物施用 施肥合理化
端野東	北 陽一北 陽 端野東一端野東	1084	腐植が少ない 加里，苦土が少ない 作土がやや浅い 一部礫質地あり	有機物施用 施肥合理化 深耕 一部客土
川向中央	川向中央一川向中央 北陽南一北陽南 仁頃一仁頃 仁頃南一仁頃南	3028	侵蝕のおそれがある 磷酸，加里が少ない 作土がやや浅く，腐植が少ない	保全耕作 施肥合理化 有機物施用，深耕

仁頃河岸	端野西—端野西 仁頃河岸—仁頃河岸	430	腐植少く、作土がやや浅い。 侵蝕のおそれがある	有機物施用 深耕 保全耕作
大和	大和一—大和一 開成南—開成南	464	下層堅密 侵蝕のおそれがある 腐植やや少く、作土層浅い。 加里が少い	心土破碎 保全耕作 有機物施用 深耕 塩基の補給

2) 保全対策地区別説明

水田

(端野中央保全対策地区)

(1) 分布状況

都市町村名	水田面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
北見市	678	端野中央—端野中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

排水良好な水田土壌で、一部は漏水気味のところも存在し、また一部は礫層の浅く出現するところもある。磷酸，加里がやや少い傾向を有する。

この地帯は稲作限界地帯に位置し、初夏，盛夏にしばしば低温に見まわれ、初期生育の遅延或は減数分裂期に障害をうけ、更に初霜が早く襲来する等気象的災害が多い。

② 営農の方向その他

安全確収と経営経済の安定が特に必要であり、水稻単作のみではなく他の作目や畜産の加味が必要である。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量	備考
1. 施肥合理化	端野中央—端野中央 678ha	磷酸，加里の増施， 苦土の施用	指 導	
2. 一部漏水防止	同 上	鋤床の堅密化，粘土の客入	指 導	

② その他

気象的災害をうける可能性の強い年は品種の選択，健苗育成，初期生育の促進等を図ることが必要である。区画拡大の場合は礫層の浅いところが多いから表土処理の必要があり，また下層土が多く混入或は露出した場合は有機物，磷酸質肥料の投入が必要である。

(相内北保全対策地区)

(1) 分布状況

都市町村名	水田面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
北見市	535	川向沢—川向沢，相内北—相内北，若松中央—若松中央

(2) 地力保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

小河川の流域や山際に分布する低平地で伏流水や地下水の影響をうけてやや排水不良を呈する場合が多い。腐植含量少く、磷酸，加里が少ない。

この地帯は稲作限界地帯に位置し，初夏，盛夏にしばしば見まわれ，初期生育の遅延或は減数分裂期に障害をうけ，更に初霜が早く襲来する等気象的な災害が多い。

② 営農の方向その他

安全確収と経営経済の安定が特に必要であり，水稻単作のみでなく他の作目や畜産の加味が必要であろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類,型式,数量	備考
施肥合理化	川向沢一川向沢 相内北一相内北 若松中央一若松中央 535ha	磷酸，加里の増肥	指導	

② その他

気象的災害をうける可能性の強い年はこれを回避または軽減するため，品種の選定，健苗育成，初期生育の促進を図るため施肥改善，水管理等に特段の技術が必要であろう。

区画拡大の場合は作土と心土の性状の差異が大きいため表土処理の必要性はやや低いと思われる。しかし表土処理をしない場合は磷酸質肥料の投入が必要であろう。

(上常呂保全対策地区)

(1) 分布状況

郡市町村名	水田面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
北見市	1199	相内中央一相内中央，上常呂一上常呂，端野中央一端野中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

凝灰質を母材とし，下層堅密なところ，やや排水不良を呈するところが多い。磷酸，加里がやや少く地力は一般に低下し易い性状を有する。

稲作限界地帯に位置し初夏，盛夏にしばしば低温に見まわれて初期生育の遅延，減数分裂期に障害をうけ，更に初霜が早くしゅう来する等気象的災害が多い。

② 営農の方向その他

安全確収と経営経済の安定が必要であり，水稻単作のみでなく他の作目，畜産の導入等が考慮されるべきであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類,型式,数量	備考
排水	相内中央—相内中央 上常呂—上常呂 端野中央西—端野中央西	明渠,暗渠排水の完備	工事費の助成	
施肥合理化	同上	磷酸,加里の増施	熔成磷肥の併用	

② その他

気象的災害をうける可能性の強い年はこれを回避または軽減するため、品種の選択、健苗育成、初期生育の促進を図るための施肥改善、水管理等に特段の技術が必要であろう。

区画拡大実施の場合、下層堅密なところは一般に表土処理が望ましく、他は表土処理の必要性は比較的少ないが、表土処理をしない場合は磷酸質肥料の投入が必要である。

(広郷南保全対策地区)

(1) 分布状況

郡市町村名	水田面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
北見市	85	広郷南—広郷南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

低位泥炭からなる水田土壌で、排水不良を呈し、石灰、苦土、磷酸が少い。

稲作限界地帯に位置し、初夏、盛夏にしばしば低温に見まわられて初期生育の促進或は減数分裂期に障害をうけ、更に初霜が早くしゅう来する等気象的災害が多い。

② 営農の方向その他

安全確収と経営経済の安定が必要であり、水稲単作のみでは他の作目、畜産の導入等が考慮すべきであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類,型式,数量	備考
排水	広郷南—広郷南 85ha	明渠,暗渠排水の完備	工事費の助成	
施肥合理化	同上	石灰,苦土の施用 磷酸の増施	指導	

② その他

気象的災害のおそれの多い年は品種の選択、健苗育成、初期生育の促進を図るための施肥改善、水管

理等に特段の留意が必要である。

畑

(柏木保全対策地区)

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
北 見 市	964	南丘一南丘,開成東一開成東,常川南一常川南,柏木一柏木,本沢西一本沢西

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

古生層,中生層,三紀層に由来する砂岩,シルト岩,凝灰質砂岩或は砂層からなる残積土壌で,一般に傾斜~緩傾斜地が多く侵蝕のおそれがある。地表から角礫に富み,礫層が浅く出現した表土,作土が浅い。腐植含量少く透水良好である。

② 営農の方向,その他

常に有機物を施用して地力を維持増進することが必要であり,また侵蝕防止を含めることが必要であるため草地を主体した営農が望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積	実 施 方 法	対策資材,機械器具 の種類,型式,数量	備 考
保全耕作	南 丘一南 丘 開成東一開成東 常川南一常川南 柏 木一柏 木 本沢西一本沢西 964 ha	等高線栽培 緑作帯の設置 牧草作付	指 導	
有機物施用	同 上	堆肥,緑肥の増産 牧草栽培	指 導 家畜の導入	
深 耕	同 上	有機物を施用しながら 漸次深耕する。	指 導	

(開拓保全対策地区)

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
北 見 市	683	開拓一開拓

(2) 保全対策地の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

軽しよな火山性土で耐侵蝕性が乏しく,傾斜~緩傾斜地が多く水蝕発生のおそれが多い。一般に塩

基含量、磷酸が少く、地形による地力差が大きい、即ち波状性傾斜地の上部は水蝕によつて表土がはがされ瘠薄な下層土が露出し、斜面下部は上部から供給された表土がやや厚く堆積しているため地味やや良好である。

② 営農の方向、その他

有機物施用、水蝕防止が重要となるから草地を主体とした経営形態が望ましいこととなる。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
保全耕作	開拓一開拓 683 ha	等高線栽培 緑作帯の設置 牧草作付 磷酸の増施	指 導 熔成磷肥の併用	
施肥合理化	同 上	石灰、苦土の施用	ピートには硼素入肥料の使用	
有機物施用 深耕	同 上	有機物を施用しつつ 漸次深耕	堆厩肥の増産、緑肥作物の栽培	

(1) 分布状況

都市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
北見市	1,716	広郷一広郷, 若松東一若松東, 福野一福野

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

凝灰質を母材とした土壌で耐侵蝕性にやや乏しく、地形は緩波状を呈するので侵蝕のおそれがある。特に春季融凍、融雪時に比較的緩傾斜でも水蝕が発生する。

土壌は磷酸、塩基に乏しい傾向を有し、また塩基の溶脱が起り易いと思われる。

② 営農の方向、その他

穀菽、混同経営が行われているが、堆厩肥、緑肥の施用を図り地力を増進する方向が必要であろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
保全耕作	広郷一広郷 若松東一若松東 福野一福野 1,716 ha	等高線栽培 牧草作付	指 導	
		磷酸の増施		熔成磷肥の併用
施肥合理化	同 上	石灰、苦土の施用 堆厩肥、緑肥の施用	指 導	

(美里北保全対策地区)

(1) 分布状況

都市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
北見市	546	広郷東一広郷東, 美里北一美里北, 柏木南一柏木南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

凝灰質を母材とした土壌で表層の腐植が多い, 下層はやや堅密であり盤層まで至らぬが透水中庸もしくはやや不良である。従つて排水中庸である場合もあるが大部分は軽度の排水不良を呈する。

地形は傾斜～緩傾斜を呈し水蝕のおそれがある。一般に塩基がやや不足気味であり, また塩基の流亡が起り易い性状を有すると考えられる。

② 営農の方向, その他

保全対策, 有機物施用等を図ること主体とした営農が望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類, 型式, 数量等	備 考
心土破碎	広郷東一広郷東 美里北一美里北 柏木南一柏木南	50cm内外まで心土破碎を実施	事業費の助成	
排水	同上	暗渠排水の完全実施	工事費の助成	
保全耕作	同上	等高線栽培 緑作帯の設置	指導の徹底	
塩基の補給	同上	石灰の施用 加里, 苦土の増施	指 導	

(昭栄中央保全対策地区)

(1) 分布状況

都市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
北見市	523	昭栄中央一昭栄中央, 仁頃中央一仁頃中央, 開成中央一開成中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

無加川, 仁頃川及び開成の小河川流域に分布する沖積土で, 腐植含量少く表土が浅い。一部は過湿のおそれがある。

② 営農の方向, その他

穀菽経営が多く営まれているが, 今後地力を増進し土壌管理に充分留意することが必要である。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
有機物施用	昭栄中央—昭栄中央 仁頃中央—仁頃中央 開成中央—開成中央 523 ha	堆厩肥の施用 緑肥の栽培	指 導	
深 耕	同 上	有機物を施用しながら漸次深耕	指 導	
排 水	同 上	軽度の明渠排水を実施	指 導	

(本沢保全対策地区)

(1) 分布状況

都市町村名	面積(ha)	備 考 (該当土壌区)
北見市	497	本沢—本沢, 大正沢—大正沢, 川向南—川向南, 仁頃河段—仁頃河段

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

仁頃川及び無加川, 常呂川の各支流域に分布する沖積土で地下水の影響をうけて排水不良を呈する場が多い。腐植含量少く, 塩基中でも苦土, 加里が少ない傾向を有する。

② 営農の方向, その他

穀菽経営が多く行われ, 部分的に水田が耕作されている。面積狭少な沢地帯のため土壌管理を充分行つて経営の充実を図ることが必要であろう。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
排 水	本 沢—本 沢 大 正 沢—大 正 沢 川 向 南—川 向 南 仁頃河段—仁頃河段 497 ha	明渠, 暗渠排水の完全実施	工事費の助成	
有機物施用	同 上	堆厩肥の施用 緑肥の栽培 苦土, 加里を増施する	指 導	

(端野東保全対策地区)

(1) 分布状況

都市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
北 見 市	1,084	北陽—北陽, 端野東—端野東

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

常呂川, 無加川, 仁頃川の流域に分布する比較的新しい沖積土で, 礫層が極く浅く土性が一般に粗いまた腐植含量低くて表土浅く, 加里, 苦土が少い。一部は礫質地が存在する。

② 営農の方向, その他

穀菽経営が多く行われており, 蔬菜も栽培されている。有機物を施用し集約的経営の方向に向うべきであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類, 型式, 数量等	備 考
有機物施用	北 陽—北 陽 端野東—端野東 1,080 ha	堆厩肥施用 緑肥作物の栽培	指 導	
施肥合理化	同 上	加里, 苦土の増施	指 導	
深 耕	同 上	有機物を施用して漸次 深耕	指 導	
一部客土	同 上	礫質地は埴土を客入	指 導	一部除礫

(川向中央保全対策地区)

(1) 分布状況

都市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
北 見 市	3,028	川向中央—川向中央, 北陽南—北陽南, 仁頃—仁頃, 仁頃南—仁頃南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

礫岩, 凝灰質砂岩, 古生層砂岩及びこれに赤色珪岩を混じた崩積土で, 表層から礫を含む〜富み, 下層に向う程礫が多くなり礫層に達するが多い。透水性良好であるが浸透水の影響をうけて下層は水分を保ち過湿, 過干のおそれは少い。磷酸, 加里がやや少く腐植に乏しい。

波状性傾斜地が多く侵蝕のおそれがある。

② 営農の方向, その他

有機物施用, 水蝕防止が重要事項となるから牧草を中心とした経営が望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
保全耕作	川向中央—川向中央 北陽南—北陽南 仁頃—仁頃 仁頃南—仁頃南	等高線栽培 緑作帯の設置 牧草作付	指 導	
施肥合理化	同 上	燐酸，加里の増施	熔成燐肥の併用	
有機物施用と深耕	同 上	有機物を施用しながら漸次深耕	指 導	

(仁頃河岸保全対象地区)

(1) 分布状況

都市町村名	面積(ha)	備 考 (該当土壌区)
北見市	430	端野西—端野西，仁頃河岸—仁頃河岸

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

山地や波状性台地の裾部に緩斜面を呈する扇状堆土で，侵蝕のおそれがあり，腐植含量低く一般に作土層が浅い。しかし養分含量は比較的多い。

② 営農の方向，その他

穀菽または混同経営が行われているが，有機物施用，水蝕防止を主体とした経営の方向が好ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
有機物施用	端野西—端野西 仁頃河岸—仁頃河岸 430 ha	堆厩肥の施用 緑肥作物の栽培	指 導 畜産の導入	
深 耕	同 上	有機物を施用しながら漸次深耕	指 導	
保全耕作	同 上		指 導	

(大和保全対策地区)

(1) 分布状況

都市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
北見市		大和一大和, 開成南一開成南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

砂岩, 赤色珪岩からなる扇状堆土で表層から礫に富み, 下層は礫層となるが一部は礫に富む盤層状になっている。腐植がやや多く, 作土層浅く加里が少ない傾向を有する。緩傾斜～傾斜を呈し水蝕発生のおそれがある。

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類, 型式, 数量等	備 考
心土破碎	大和一大和 445 ha	50cm内外まで心土破碎	大型機械 事業費の助成	
保全耕作	大和一大和 開成南一開成南	等高線栽培 緑作帯設置	指 導	
有機物施用	同 上	堆厩肥施用 緑肥作物の栽培	指 導 家畜の導入	
深耕	同 上	有機物を施用しながら漸次深耕	指 導	
塩基の補給	同 上	加里の増施 苦土の施用	指 導	

4. 調査成績一覧表

1) 土壤分析成績

(水田)

保 全 对 策 区	土 地 層	点 番 号	深 さ cm	理 学 性											化 学 性																				
				礫 (風乾物中) %	風 乾 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現 地 に お け る 理 学 性 100cc容中					pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 置 換 容 基 量 me/100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	乾 土 効 果	30℃ NH ₃ -N 発生量		有 効 態 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土	湿 土	P ₂ O ₅	N	
全 野 中 央 地 区	端 野 中 央	北 35 端 野	1	0~12	32	64	223	261	484	29.6	220	C L					52	12	370	0.36	10	39.6	4223	238	106	381	989	174	229	55	21.9	229	0.84		
			2	12~18	23	85	198	285	483	288	229	C L					51	12	490	0.49	10	38.3	5093	179	129	493	1160	109	108	0	10.6	108	1.67		
			3	18~26	1.6	81	385	161	546	195	259	Li C					51	07	479	0.48	10	43.9	5305	409	201	430	1225	67	94	27	45	94	-		
			4	26~13	31	43	455	272	727	140	133	S L					50	19	263	0.36	8	36.2	10150	284	283	100.1	1690	0	33	33	29	33	-		
相 内 北 保 全 对 策 地 区	川 向 沢	北 61 端 野	1	0~14	1.1	49	96	457	553	238	209	C L					53	48	1.9	283	0.33	9	26.0	3920	1206	47	538	1030	150	229	7.9	101	229	1.39	
			2	14~25	0.6	29	630	21.2	842	7.9	7.9	L S					60	47	2.1	1.70	0.20	9	24.7	5684	784	141	821	1130	104	104	0.	40	104	2.03	
			3	25~43	4.1	-	23	489	51.2	198	290	Li C					64	49	9.8	-	-	-	27.8	6328	1186	-	81.2	1210	-	-	-	1.7	-	-	
	相 内 北	北 5 B	1	0~19	1.4	7.6	105	414	519	284	197	C L					55	51	1.7	443	0.43	10	39.0	4265	81.9	58	390	2380	219	309	90	45	309	1.6	
			2	19~40	3.3	3.0	508	14.0	648	204	148	L					60	55	0.2	1.74	0.16	11	30.1	7321	1200	37	521	1760	1.5	3.0	25	58	25	27	
			3	44~60	3.4	1.7	44	280	324	289	387	Li C					51	44	10.0	1.01	0.11	9	50.2	5661	1929	82	388	1,660	-	-	-	2.1	-	-	
	若 松 中 央	北 67	1	0~13	3.0	3.8	53	355	408	306	286	Li C					62	57	0.5	2.22	0.26	9	43.1	784.0	1578	86	650	1280	116	181	65	186	181	2.08	
			2	13~25	2.4	0.8	143	30.0	443	274	283	Li C					55	47	0.5	0.44	0.08	6	39.1	5821	261.3	441	532	1380	95	102	0.7	1.6	102	2.34	
			3	25~50	4.1	-	67	448	515	244	241	C L					48	41	13.49	-	-	-	40.7	3687	1633	63	324	1,395	-	-	-	-	-	-	
上 常 呂 保 全 对 策 地 区	上 常 呂	北 54	1	0~13	2.1	7.6	72	373	445	330	225	C L					51	47	3.0	442	0.39	11	28.4	3269	147	345	41.1	824	136	191	55	114	191	0.26	
			2	22~30	2.7	0.8	112	238	350	406	244	C L					63	50	0.5	0.47	0.05	9	20.1	3556	276	480	632	563	0.2	142	140	45	142	1.11	
	相 内 中 央	北 47	1	0~28	2.8	9.5	49	391	440	329	231	C L					58	51	0.8	549	0.53	10	51.2	5860	230	193	408	1,070	25	106	81	136	106	0.91	
			2	28~50	0.9	1.2	27	550	577	282	141	L					60	48	0.8	0.70	0.09	8	22.5	4094	579	89	648	880	0.8	1.4	0.6	12	14	1.09	
			3	50~80	1.0	-	49	649	698	206	9.6	S L					63	50	0.8	-	-	-	21.9	4178	611	106	680	787	-	-	-	tr	-	-	
	端 野 中 央 西 端 野	北 38 端 野	1	0~20	4.9	84	88	325	413	336	251	Li C					58	51	1.4	489	0.44	11	43.7	4865	105	50	398	1,320	94	153	59	121	153	1.22	
2			20~37	4.9	7.0	83	268	351	302	347	Li C					58	52	0.5	4.10	0.36	11	48.8	629.2	389	187	459	1,195	99	174	75	80	174	1.38		
3			37~77	9.8	-	181	543	724	155	121	S L					60	50	0.5	-	-	-	19.2	2162	11.7	201	401	331	-	-	-	2.0	-	-		
広 郷 南 保 全 对 策 地 区	広 郷 南	L P	1	0~23	1.3	9.2	155	327	482	32.0	198					56	46	1.8	532	0.45	12	35.6	322.0	105	94	32.3	1,067	13.0	155	25	113	155	0.50		
			2	23~39	7.4	-	-	-	-	-	-	-					55	48	2.5	-	-	-	84.5	840	603	141	3.6	1,960	-	-	-	tr	-	0.52	

(畑)

保全対策区	土地層	地点番号	深さ cm	理 学 性											化 学 性															
				礫 (風乾土中) %	風 乾 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現 地 に お け る 100CC 容 中					pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			置 換 容 基 量 me/100g	置 換 性 塩 基 mg/1000g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 mg/100g P ₂ O ₅
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シルト %	粘 土 %		容 積 重 量 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
柏木保全対策地区	南丘13	1	0~17		05	58	193	352	545	287	168	C L						64	59	03	336	030	11	205	4649	204	264	81.0	727	172
		2	17~38		10	12	235	289	524	319	157	C L						60	49	1.0	0.71	0.09	8	119	1699	50	187	513	727	24
		3	38~60		05	-	313	332	645	229	126	L						60	53	03	-	-	-	100	1551	50	29	550	505	64
	開成東16	1	0~14		09	43	163	41.1	57.4	31.0	116	L						65	57	03	248	023	11	182	4206	75	336	824	666	149
		2	14~35		05	05	326	27.6	60.2	29.5	103	L						63	53	03	-	-	-	139	2608	204	149	669	606	24
	常川南12	1	0~20		16	5.6	113	530	643	260	97	L	822	286	433	281	71.4	64	56	03	324	027	12	269	6113	306	408	81.0	755	207
2		20~35		24	12	229	450	679	265	56	S L	1069	370	348	282	630	65	55	03	0.69	0.09	8	292	5675	827	796	69.2	1080	tr	
3		35~60		26	-	224	475	699	239	62	S L	1117	387	394	219	61.3	61	52	05	-	-	-	325	3970	827	911	655	1280	136	
柏木11C	1	0~17		24	4.7	51	484	535	298	16.7	C L	1114	399	379	222	601	58	4.6	1.3	274	024	11	231	3701	232	168	57.1	725	164	
	2	17~30		09	1.3	58	429	487	447	66	L	1200	399	351	250	601	55	4.3	4.5	0.74	0.10	7	182	2972	407	77	58.2	666	69	
	3	30~50		38	-	50	490	540	264	19.6	C L	1309	460	360	180	540	49	4.0	24.5	-	-	-	291	4083	577	110	50.2	1040	tr	
	4	50~70		51	-	11.4	453	567	186	24.7	SCL	1179	440	400	160	560	47	3.9	283	-	-	-	394	6127	1167	201	55.6	756	tr	
本沢西A6	1	0~16		18	25	121	520	641	231	128	L	1156	393	287	320	607	57	4.1	1.0	1.47	0.14	10	221	3480	107	24	56.1	672	261	
	2	16~35		22	05	262	43.7	69.9	208	93	S L	1249	41.7	29.6	287	583	53	4.4	60	0.31	0.04	8	222	3152	127	269	50.5	713	25	
	3	35~60		2.6	-	55	652	707	164	12.9	S L	1207	41.8	29.1	291	582	49	4.2	7.8	-	-	-	272	3527	258	374	46.3	916	12	
	4	60~85		26	-	17.8	631	809	84	10.7	S L						54	4.4	30	-	-	-	282	4321	208	110	54.6	916	16	
開拓策保地全区	開拓11端野	1	0~20		49	11.1	85	438	523	379	98	L						47	43	50	644	038	17	284	2856	340	328	359	848	116
		2	20~35		68	63	104	290	394	391	215	C L						53	43	57	365	027	14	213	1036	120	274	173	1,618	08
		3	35~60		52	24	7.0	210	285	312	404	LiC						59	51	0.7	139	010	14	103	476	140	159	165	1,271	tr
若松東保全対策地区	広部10C	1	0~18		36	66	120	418	538	309	153	C L						62	52	05	384	031	12	263	4290	105	225	58.2	1,310	120
		2	18~30		1.7	15	164	417	581	353	66	L	944	322	41.8			65	54	0.5	0.86	0.11	8	157	2210	77	178	50.3	1,180	tr
		3	30~50		04	-	230	368	598	297	105	L	984	331	401	260	678	66	53	0.1	-	-	-	137	2111	125	240	54.7	660	tr
	若松東28C	1	0~27		12	66	148	419	567	284	149	L	1023	336	374	268	669	64	57	03	381	033	11	254	6315	50	221	88.6	714	118
		2	27~45		1.7	22	152	372	524	294	182	C L						57	49	08	126	014	9	170	2782	50	259	58.2	816	tr
		3	45~57		03	-	21.8	437	655	286	59	S L						58	46	15	-	-	-	121	1548	50	197	45.5	440	tr
		4	57~		04	-	26.6	395	661	231	108	S L						61	47	10	-	-	-	134	2005	226	173	53.7	460	32
	福野26B	1	~		1.5	7.3	9.7	406	503	335	162	C L						59	50	08	426	033	13	252	4161	125	178	58.7	816	133
		2	~		1.2	1.8	11.8	378	496	31.6	188	C L						54	47	20	101	0.11	9	162	2271	24	125	50.0	868	24
3		~		1.9	-	100	375	475	321	204	C L						55	47	1.8	-	-	-	157	1893	309	365	43.3	959	20	

保全対策区	土地点番号	層位	深さ cm	地学性											化学性																
				礫(風乾物中) %	風乾土中		細土無機物中					土性	現地における 100cc中					pH		置換酸度 Y ₁	有機物			塩置換容量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	
					水分%	腐植%	粗砂%	細砂%	砂合計%	シルト%	粘土%		容積重g	固相容積cc	水分容積cc	空気容積cc	孔隙率%	H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				
美里北保全対策地区	広郷東 北訓子府11	1	0~25			94	57	378	435	364	201	C L					51	45	38	547	0.48	11	327	3808	281	47	416	1,340	140		
		2	25~40			1.0	19.3	246	439	442	11.8	L					53	43	2.0	0.55	0.09	6	121	2044	101	20	603	700	1.6		
		3	40~			-	12.3	32.1	444	29.8	25.8	L i C					63	47	1.3	-	-	-	12.7	2408	261	24	677	640	tr		
	美里北	仁8	1	0~15		0.2	24	127	33.9	46.6	167	36.7	L i C					58	48	0.8	1.58	0.18	9	157	2669	24	154	605	640	21.6	
			2	15~25		1.6	-	14.0	27.5	41.5	31.2	27.3	L i C					57	4.7	0.8	-	-	-	184	4879	494	40.8	94.6	571	28	
			3	25~40		2.3	-	9.6	23.2	32.8	17.4	49.8	H C					50	40	4.8	-	-	-	180	2260	335	20.1	45.0	61.2	1.6	
	柏木南	仁27	1	0~23		0.9	44	7.7	47.3	55.0	28.6	16.4	C L					60	58	0.8	2.56	0.21	12	185	2759	50	4.3	530	525	97	
			2	23~35		0.6	0.8	8.6	47.8	56.4	30.0	13.6	L					59	4.7	0.8	0.49	0.07	7	11.6	1764	7.5	4.8	54.3	444	tr	
			3	35~45		0.6	-	7.5	47.7	55.2	27.1	17.7	C L					59	4.8	1.3	-	-	-	161	1935	125	7.2	42.9	50.5	tr	
			4	45~		2.9	-	2.0	53.6	55.6	22.3	22.1	C L					49	40	9.0	-	-	-	30.5	2344	1635	20.6	27.5	88.6	tr	
	昭栄中央保全対策地区	昭栄中央	留北42	1	0~18		2.9	2.2	7.2	32.8	40.0	32.3	L i C	9.43	3.64	1.46	4.90	6.36	5.3	4.0	1.68	1.22	0.14	9	21.0	2874	34.3	1.34	4.88	7.38	tr
				2	18~38		1.2	1.6	1.7	4.65	4.82	3.15	20.3	C L	10.32	4.25	3.00	2.75	5.75	5.9	4.5	1.0	0.93	0.13	7	19.6	3954	10.1	1.58	7.19	7.27
3				38~65		1.9	-	3.0	5.59	5.89	2.55	15.6	C L	10.39	3.89	3.46	2.65	6.11	6.0	4.3	8.8	-	-	-	18.8	3505	20.4	1.44	6.65	7.55	2.0
仁頃中央		仁22	1	0~18		2.8	4.5	3.6	40.2	43.8	3.21	24.1	C L	9.23	3.15	4.04	2.81	6.85	6.7	6.1	0.3	2.63	0.30	9	3.58	8656	7.24	2.97	8.63	1,030	317
			2	18~40		2.8	1.8	2.2	5.34	5.56	5.9	3.85	S C	10.50	3.71	4.28	20.1	6.29	6.7	5.7	0.3	1.06	0.16	7	3.45	7103	7.78	1.34	7.33	1,360	103
			3	40~75		2.2	-	0.3	5.47	5.50	2.50	20.0	C L	9.61	3.51	4.72	1.77	6.49	6.5	5.3	0.2	-	-	-	3.00	5087	11.33	7.2	6.03	9.80	7.8
			4	75~		2.3	-	3.0	5.88	6.18	2.21	16.1	C L					6.4	5.0	0.3	-	-	-	2.76	4843	10.06	9.1	6.27	9.21	3.7	
關中成央		北75	1	0~22		2.2	8.3	13.0	36.5	49.5	2.57	24.8	C L					6.5	6.2	0.3	4.82	0.49	10	3.63	9671	4.64	2.45	9.50	9.58	4.66	
	2		22~40		2.3	2.6	29.2	2.21	5.13	1.35	3.52	L i C					6.5	5.8	0.3	1.50	0.17	9	2.66	5894	8.87	8.6	7.89	1,040	1.43		
本沢保全対策地区	大正沢	北66	1	0~25		4.2	1.77	5.0	32.6	37.6	3.65	2.59	L i C	5.34	2.01	4.81	3.18	7.99	5.6	5.2	0.5	10.60	0.87	12	4.77	8925	2.44	0.5	6.67	9.24	1.92
			2	25~45		5.5	1.65	0.2	14.6	14.8	39.7	4.55	H C	5.70	2.00	2.01	2.21	4.22	4.7	3.9	1.00	9.58	0.68	14	5.06	5423	5.79	4.3	3.81	9.95	1.7
	本沢	仁28	1	0~16		1.2	3.2	1.51	36.0	5.11	2.78	2.11	C L	9.85	3.26	4.15	2.59	6.74	6.4	5.4	0.2	2.42	0.26	9	3.36	5462	4.60	7.2	5.80	9.50	10.1
			2	16~40		2.6	0.8	2.75	32.6	6.01	2.14	1.85	C L	14.24	4.94	3.54	1.52	5.06	6.3	5.0	0.5	0.47	0.06	8	3.39	4969	6.45	10.6	5.22	1,050	3.3
			3	46~60		1.7	-	7.2	5.36	60.8	1.89	20.3	S C L	11.79	4.47	4.63	9.0	5.53	6.2	5.2	0.5	-	-	-	3.30	4027	15.12	1.39	4.36	1,020	3.3
	仁頃河段	仁15	1	0~27		3.2	9.5	7.9	40.0	47.9	2.36	2.85	L i C	7.81	2.97	4.51	2.52	7.03	5.4	4.3	3.50	5.53	0.52	11	3.53	3970	8.7	8.2	3.71	1,260	20.0
			2	27~40		1.9	1.3	2.47	3.96	6.43	1.97	1.60	S C L	10.99	3.83	3.93	2.24	6.17	5.3	4.0	4.69	0.74	0.12	6	1.45	1963	5.2	7.7	3.59	6.12	8.6
			3	40~70		0.9	-	1.36	5.52	6.88	1.93	1.19	S L	10.46	3.57	4.26	2.17	6.43	5.4	4.0	2.81	-	-	-	1.41	2658	4.4	1.58	4.85	6.46	1.2
	川向南	端野北30	1	0~17		2.8	5.5	1.55	2.80	4.35	2.68	2.97	C L					5.4	4.2	2.81	3.18	0.36	9	2.57	3348	5.62	7.2	4.63	1,020	7.6	
2			17~35		3.0	0.9	1.08	2.49	3.57	3.64	2.79	L i C					5.3	3.8	10.63	0.51	0.08	6	2.47	3452	7.66	6.2	4.98	9.80	2.1		
3			35~50		3.1	-	40.5	3.04	70.9	1.21	17.0	S L					5.3	3.8	9.38	-	-	-	2.49	3382	11.89	6.2	4.86	1,010	1.6		

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性											化 学 性																
					礫 (風乾物中) %	風 乾 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における 100cc容中					pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩置 換容 基量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 ♀	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 %	空 気 容 積 CC	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				
端保 全 野 策 東 区	北 陽	仁	1	0~15		27	32	380	346	726	153	121	S L						6.1	46	08	1.84	0.19	10	34.7	7206	1347	144	741	1,070	243	
			2	15~40		30	1.1	31.2	469	781	1,09	11.0	S L							6.3	50	50	0.65	0.09	7	36.0	780.6	42	10.1	772	1,260	45
	端 野 東	北	1	0~20		23	1.6	48.7	381	868	7.4	58	L S						6.0	55	03	0.90	0.10	9	19.6	3444	55	37.9	627	560	659	
			2	20~50		0.4	—	60.6	34.0	94.6	4.4	1.0	S							6.4	55	03	—	—	—	16.6	2285	42.9	1.0	49.4	92.4	1.29
川 向 中 央 保 全 策 東 区	川 向	北 4B	1	0~18		1.9	5.4	14.7	3.99	5.46	31.2	14.2	L	91.9	3.17	40.3	280	683	6.4	57	03	3.15	0.31	10	30.7	685.9	41.1	39.3	79.5	73.4	29.3	
			2	18~35		3.8	1.2	20.8	31.0	51.8	33.4	14.8	L	130.6	4.24	3.16	260	57.6	5.8	4.6	1.5	0.69	0.07	10	34.3	692.6	110.1	21.1	72.0	1,100	11.2	
			3	35~60		5.4	—	28.4	30.9	59.3	2.37	17.0	C L	137.2	4.96	3.10	20.4	52.4	5.3	4.0	4.5	—	—	—	51.2	1,048.0	223.8	1.30	73.0	1,760	tr	
	中 央	北 17C	1	0~16		1.6	3.5	15.5	3.60	5.15	3.20	16.5	C L	104.9	3.61	3.77	26.2	63.9	6.3	5.5	0.3	2.01	0.22	9	2.55	687.1	98.0	11.5	96.1	77.5	35.8	
			2	16~31		2.0	—	24.0	27.5	51.5	2.22	26.3	C L	137.6	4.75	3.06	21.9	52.5	5.8	5.0	0.5	—	—	—	3.26	673.0	195.6	1.30	73.6	1,180	—	
			3	40~60		2.1	—	10.7	20.1	30.8	2.02	49.0	H C	127.6	4.40	4.00	16.0	56.0	5.3	4.5	1.8	—	—	—	3.77	176.4	2.4	5.3	16.7	1,260	—	
	北 陽 南 仁 頃 南	北 陽	仁 7	1	0~20		1.5	5.0	6.0	5.11	5.71	30.3	1.26	L	78.7	2.59	31.1	43.0	74.1	5.6	4.6	2.0	2.98	0.24	12	1.82	255.5	1.17	17.8	46.2	59.2	1.50
				2	20~35		2.0	1.6	8.4	4.78	5.62	30.1	13.7	L	98.0	3.34	3.54	3.12	66.6	5.9	4.8	0.8	0.93	0.11	9	1.25	182.2	1.79	1.4	52.0	67.3	2.4
				3	35~65		2.0	—	11.3	6.19	7.32	19.8	7.0	S L	105.8	3.67	3.73	26.0	63.3	5.6	4.4	5.0	—	—	—	1.41	171.6	1.55	19.2	43.6	71.4	1.2
仁 頃 南		仁 1	1	0~7		2.5	4.6	5.3	3.21	3.74	4.12	2.14	C L						6.0	5.2	0.5	2.65	0.22	12	2.63	489.0	3.11	5.8	66.2	70.0	3.7	
			2	17~32		1.9	—	40.0	19.0	59.0	29.1	11.9	L							5.5	4.5	9.0	0.53	0.07	8	3.11	353.6	84.7	3.8	40.5	85.6	1.6
			3	32~50		3.1	—	19.4	21.4	40.8	3.22	27.0	Li C							5.3	4.5	1.08	—	—	—	3.74	459.3	137.7	4.3	43.9	1,090	tr
仁全 頃 策 東 区	仁河 頃岸	仁	1	0~25		3.3	10.5	2.1	4.69	4.90	2.74	2.36	C L						5.5	4.3	3.8	6.09	0.51	12	3.93	442.2	6.25	20.6	40.2	1,170	19.7	
			2	25~50		2.6	3.3	5.2	3.36	3.88	3.10	3.02	Li L							5.5	4.6	1.3	1.88	0.19	10	4.22	61.13	5.35	34.1	51.7	98.9	1.7
	端 野 西	端野 北 71	1	0~20		0.6	4.5	24.0	3.78	6.18	1.80	20.2	SCL						6.1	4.6	0.30	2.58	0.29	9	4.48	933.7	6.33	12.7	74.3	1,395	2.33	
			2	20~60		2.1	1.3	26.4	3.13	5.77	1.94	22.9	SCL							6.3	4.3	0.60	0.76	0.11	7	4.47	1,085.1	5.91	7.1	86.6	1,690	7.4
大 和 策 東 区	大 和	仁	1	0~20		2.7	5.6	11.9	4.45	5.64	2.37	1.98	L						6.0	5.3	0.3	3.27	0.35	9	3.69	590.8	6.47	16.8	57.2	94.7	14.8	
			2	20~35		1.9	2.0	3.22	2.55	5.77	1.99	2.24	SCL							6.0	4.9	0.5	1.14	0.15	8	2.96	414.4	7.70	8.2	50.0	95.9	1.9
	開 成 南	北	1	0~20		4.4	6.2	14.7	4.49	59.6	2.65	1.39	L							6.1	5.7	0.3	3.58	0.38	9	4.22	806.7	6.57	22.1	68.2	92.4	60.2
2			20~35		5.7	1.7	2.71	2.69	54.0	1.84	2.76	Li C								6.1	5.5	0.3	1.01	0.12	8	4.45	836.7	15.71	6.2	67.0	1,350	4.53